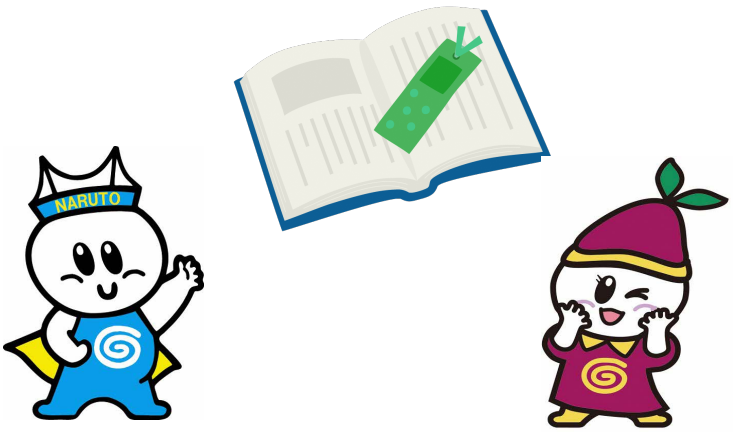
鳴門市子どもの読書活動推進計画

〔第４次推進計画〕



うずしおくん　　うずひめちゃん

令和４年４月

鳴門市教育委員会

はじめに

読書活動は、子どもが言葉を学び、論理的な思考力や豊かな感性・創造力を養うことにより、人生をより深く生きる力を身に付けていく基礎を育てます。また、国際化・情報化の進展や少子高齢化が進行する中、社会環境は大きく変化を遂げており、これからの時代を生きる子どもたちには、そうした変化に積極的に向き合うとともに、様々な情報を見極め新たな価値を創造していく力が求められています。

本市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、施策の方向性と具体的な取組を示すものとして、平成17年３月に「第１次鳴門市子どもの読書活動推進計画」を策定し、その後おおむね５年をめどに「鳴門市子どもの読書活動推進計画」を定めています。平成28年３月には「第３次推進計画」を策定し、子どもが自主的に読書活動に取り組むことができる環境整備や社会的気運の醸成に努めてまいりました。

近年、社会においては、インターネットやスマートフォン、ＳＮＳ、電子書籍等の様々な情報通信手段や情報メディアが普及・多様化してきており、それらは子どもの読書環境にも大きな影響を与えていると考えられます。

このたび、子どもたちを取り巻く教育環境の変化や「第３次推進計画」の成果・課題を踏まえながら「第４次推進計画」を策定しました。これに則り、子どもの読書活動の意義や重要性への理解や関心を深め、家庭や地域、学校等の連携のもと市民総ぐるみで、すべての子どもが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境の整備を推進してまいります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、ご提言やご協力をいただきました「鳴門市子どもの読書活動推進協議会」委員や市民の皆さま方に心よりお礼を申し上げるとともに、今後とも、本市の子どもの読書活動の推進のため、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年４月

鳴門市教育委員会

教育長　三浦克彦

目　次

第１章　第３次推進計画期間の成果と課題

１　第３次推進計画策定後の情勢変化

（１）国の動向 …… 1

（２）県の動向 …… 2

（３）社会の状況 …… 2

（４）市の状況 …… 3

２　第３次推進計画期間の成果と課題

（１）第３次推進計画期間の成果 …… 3

（２）第３次推進計画期間の課題 …… 4

第２章　基本的な考え方

１　第４次推進計画の策定趣旨 …… 9

２　第４次推進計画の基本方針 …… 9

３　第４次推進計画の目標 ……10

４　第４次推進計画の対象 ……10

５　第４次推進計画の期間 ……10

６　第４次推進計画の体制 ……11

７　第４次推進計画の体系 ……12

第３章　「子どもの読書活動推進」のための方策

１　家庭における「子どもの読書活動」の推進 ……13

（１）ブックスタート事業における活動の推進 ……13

（２）家庭における活動の推進 ……14

２　地域における「子どもの読書活動」の推進 ……15

（１）市立図書館における活動の推進 ……15

（２）鳴門教育大学附属図書館児童図書室における活動の推進 ……17

（３）児童クラブにおける活動の推進 ……19

（４）ボランティア団体における活動の推進 ……20

３　学校等における「子どもの読書活動」の推進 ……21

（１）保育所（園）・認定こども園・幼稚園等における活動の推進 ……22

（２）小学校における活動の推進 ……23

（３）中学校における活動の推進 ……25

（４）高等学校における活動の推進 ……26

（5）小･中学校の学校図書館サポーターによる学校図書館活性化の推進 ……27
4　市立図書館・学校・ボランティア団体等の連携・協力の推進 ……30

第４章 「子どもの読書活動」推進に向けた社会的気運の醸成

1 「子どもの読書活動」の推進に向けて……31
2　読書活動を取り巻く社会の変革 ……32
（1）電子図書の進展への対応 ……32
（2）読書のバリアフリー化の推進 ……32
（3）新型コロナウイルス感染症による影響 ……33

第５章　計画の推進体制の整備 ……34

資料編

1 「鳴門市子どもの読書活動に関するアンケート調査」の結果 …… 1
2　鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧表 ……29
3　子どもの読書活動の推進に関する法律 ……31
4　鳴門市子どもの読書活動推進協議会委員名簿 ……33

第１章　第３次推進計画期間の成果と課題

１　第３次推進計画策定後の情勢変化

「鳴門市子どもの読書活動推進計画（第３次推進計画）」が平成28年３月(2016年)に策定され、その前後の時期においては、国の関連法の整備状況、県内の教育諸施策も大きく変化しました。

（１）国の動向

①「学校図書館法」の一部改正

平成26年７月、「学校図書館法」の一部が改正され、専ら学校図書館の職務に従事する職員としての学校司書を置くように努めなければならないことや、学校司書への研修等の実施について規定されました。

②「学校図書館ガイドライン」、「学校司書のモデルカリキュラム」の作成

平成28年10月、「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」が取りまとめられ、これを受け「学校図書館ガイドライン」、「学校司書のモデルカリキュラム」が作成されました。

③「学校図書館図書整備等５か年計画」の作成

「第４次学校図書館図書整備等５か年計画」(平成24年度～28年度)において、総額約1，000億円の地方財政措置が講じられ、学校図書標準を達成した学校の割合は増加しました。平成29年度からの「第５次同５か年計画」においては、総額2，350億円をかけ、図書標準の達成に加え、計画的な図書の更新を行っています。

さらに、令和４年度からの「第６次同５か年計画」では、公立小中学校等の学校図書館における、学校図書館図書標準の達成、計画的な図書の更新、学校司書の配置拡充等を図ることにより、公立小中学校等の学校図書館の整備充実に努めることとしています。

④「第３期教育振興基本計画」の策定

平成30年６月、教育基本法(平成18年法律第120号)第17条第１項に基づき、第３期の教育振興基本計画が閣議決定されました。本計画は2030年以降の社会変化を見据えた教育政策の在り方を示すもので、以下の５つの基本方針が明示されました。

１　夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成
２　社会の持続的な発展を牽引するための多様な力の育成
３　生涯学び、活躍できる環境の整備
４　誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットの構築
５　教育政策推進のための基盤整備

⑤「学習指導要領」の改訂・施行（小･中学校、高等学校）

小学校は令和２年度、中学校は令和３年度から新学習指導要領が全面実施されました。また、高等学校では令和４年度から年次進行で移行されます。新学習指導要領では、言語能力を向上させる重要な活動の一つとして読書活動の充実が規定されていま

す。各教科等の特質に応じて言語活動の充実を図るとともに、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童生徒の自主的・自発的な読書活動を充実させることが求められています。

（２）県の動向

①「徳島県読書活動の推進に関する条例」の制定

平成29年４月(2017年)、子どもから大人まで、全ての県民が読書活動に取り組む環境づくりを積極的に推進し、文化的で豊かな県民生活の実現を目指して、「徳島県読書活動の推進に関する条例」が制定されました。この条例では４月23日から５月12日までと、10月27日から11月９日までを徳島県読書活動推進期間としています。

②「徳島県立図書館開館100周年」

大正６年(1917年)に「徳島県立光慶図書館」として開館した徳島県立図書館は、平成29年に開館100周年を迎え、県内の中核図書館として幅広い分野の図書や資料を収集し、様々な知的欲求や調査研究に応える「知の拠点」としての機能強化に取り組んでいます。

③ 読書の生活化プロジェクトや「とくしま子ども読書推進アクション」、「ひろがる読書推進事業」等の推進

読書の生活化プロジェクトとして「Ⅳ 友達や家族に『おすすめ本』を紹介しよう！(平成27年度～29年度)」、「Ⅴ 本や新聞記事について友達や家族と語り合おう！(平成30年度～令和２年度)」や、「とくしま子ども読書推進アクション(平成24年度～28年度)」が推進されました。平成29年度には「つながる読書推進事業」、「とくしまの子供のためのブックリスト１００！(改訂版)」、「とくしまの赤ちゃんのためのブックリスト１００！(新装版)」が発行されました。令和３年度からは「読書の生活化プロジェクトⅥ 本や新聞記事を活用して調べよう、考えよう、伝えよう！」が実施されています。

また、「つながる読書推進事業」の内容を継承・発展させ、令和２年度から新たに「ひろがる読書推進事業」を実施しており、読書への関心を高める取組や、学校図書館運営を支援する地域人材の育成、多様な背景を持つ子どもへの読書支援といった施策を推進しています。

④ 徳島県教育振興計画

同計画の第３期(平成30年度～令和４年度)では、１日10分以上の読書(新聞を含む)をする児童生徒の割合の増加を数値目標として設定し、読書習慣の定着を目指しています。また、高校生を対象とした読み聞かせの講習会等を実施するとともに、地域での読み聞かせを体験できる機会の充実を図っています。

（３）社会の状況

① 情報通信手段の発展・多様化

児童生徒のスマートフォンの所持率は年々増加しており、個人が所有する通信ゲームやパソコン等も、以前にも増して子どもたちの身近に存在するようになっています。また、SNS等の情報通信手段の普及や多様化は、子どもの読書環境にも大きな影響を与えていると考えられます。

② 国際化や情報化、少子高齢化等の進展

近年、社会における国際化・情報化の進展や、少子高齢化が一層進行する中、わたしたちを取り巻く社会環境は大きく変化を遂げており、将来の予測が困難な時代になっています。これからの時代を生きる子どもたちには様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め新たな価値を創造していく力が求められています。

（4）市の状況

①「特定非営利活動法人ふくろうの森」との図書館協働運営

平成15年４月(2003年)から市立図書館は、特定非営利活動法人ふくろうの森(以下、「NPO法人「ふくろうの森」」という。）と官民一体となった図書館の協働運営を行ってきました。平成26年10月から委託業務の拡大を行い、一層の図書館活動の活性化や図書館運営の充実を図っています。なお、NPO法人「ふくろうの森」は平成29年１月、認定NPO法人になりました。

NPO法人「ふくろうの森」には、図書館活動ボランティアとして、おはなし会や子ども体験活動、大人の文学講座、ＩＴ活動、環境整備など９つの部門があり、年齢や障がいの有無に関わらず、あらゆる方を対象に、読書支援や社会教育の推進を図る活動を行っています。環境整備活動においては、図書館内や館庭の整備や美化を行い、利用者の方に気持ちよく図書館を利用してもらえるように活動しています。

② 市立図書館の耐震化・施設改修

市立図書館では、平成30年７月から、建物の耐震化と、多くの市民が気軽に利用できる施設の機能充実と多機能化を図る改修工事を行い、令和元年５月(2019年)にリニューアルオープンしました。来館者用エレベーターの新設をはじめ、１階・２階のトイレと多機能トイレのリニューアル、子ども連れの方も使いやすい授乳室の設置、２階視聴覚室の多目的利用化に向けた改修が行われました。

③ 読書の生活化プロジェクト推進

幼稚園、小・中学校では、子どもたちに「生きる力」の基礎が身に付くように、県の「読書の生活化プロジェクトⅣ・Ⅴ」を推進し、生涯にわたる読書生活の基礎の確立を図りました。また、令和３年度からは「読書の生活化プロジェクトⅥ」が実施されています。

2　第３次推進計画期間の成果と課題

（1）第３次推進計画期間の成果

① ブックスタート事業は、平成19年度より４か月児健診時に、赤ちゃんと保護者を対象に親子で一緒に絵本を楽しむことの大切さを伝えながら、絵本を手渡すとともに、市立図書館の利用案内を実施しました。家庭に絵本があることによって読み聞かせの機会が持て、親子のふれあいの時間を持つことができています。

② 市内全小･中学校では「朝の読書」が実施されています。また、読書活動ボランティアによる読み聞かせは、すべての幼稚園、ほとんどの小･中学校のほか、児童クラブでも実施されています。

③ 学校図書館サポーターは、平成21年度、林崎小学校、第一小学校、第一中学校の３校

に配置されました。その後、配置校を増やし、令和3年度には、市内小・中学校の全校に配置（２校兼務の４人を含む14人）されており、学校図書館の貸出冊数や利用者の増加傾向につながっています。

④　市内の全幼稚園では、毎日「担任による一日一話」の読み聞かせが実施されています。

⑤　保育所（園）、認定こども園では、日常の保育・教育の中で、職員の読み聞かせが行われ、絵本コーナーも設けられています。また、保護者への絵本の紹介もされています。

⑥　市立図書館のウェブサイト上の「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」では、幼稚園、小・中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体の情報交換や情報共有の場となり「子どもの読書活動推進ネットワーク」が図られています。

⑦　鳴門教育大学では、児童文化研究会の学生を中心に、市内の小学校等へ読み聞かせに出向いています。また鳴門教育大学附属図書館児童図書室主催で親子対象のわらべうた講習会を開催し、地域との連携や市民への啓発活動が定着してきています。（新型コロナウイルス感染拡大のため休止した取組もあります）

⑧　児童クラブでは、市立図書館の団体貸出やボランティアによるおはなし会を積極的に取り入れ、読書活動が子どもの生活に定着するように努めています。

（２）第３次推進計画期間の課題

第４次推進計画策定に当たり、令和2年度にアンケート調査を実施しており、主な設問について第３次推進計画策定時のアンケート調査（平成26年度）と比較し、成果と課題を検証します。（アンケート調査の結果については、「資料編」に掲載）

※「令和2年度にアンケート調査」 市内の小学２年生・５年生、中学２年生、高校２年生、保護者（幼稚園年少児・小学５年生）を対象に、令和３年（2021年）に１月から２月にかけて実施した。なお、前回のアンケートは、平成26年10月（2014年）に実施。

①　読書が好きな児童生徒の割合

「本を読むことは好きですか」　好き、どちらかといえば好きと答えた割合

学年	令和２年度	平成26年度	増減の割合
小２	88.0%	91.6%	3.6ﾎﾟｲﾝﾄ減
小５	81.4%	76.5%	4.9ﾎﾟｲﾝﾄ増
中２	75.4%	63.8%	11.6ﾎﾟｲﾝﾄ増
高２	56.9%	61.5%	4.6ﾎﾟｲﾝﾄ減

読書が好きな小学５年生、中学２年生の割合は前回調査と比べ増加しています。特に中学２年生に大幅な増加傾向が見られますが、「朝読書」など中学校での読書時間の確保と学校図書館の整備が進んだことが大きく関わってきていると思われます。

一方、高校生の減少が顕著に見られますが、多忙な高校生にとって読書の時間を確保することが非常に難しいことが指摘されています。学校での読書時間の確保など、高校生に対する読書環境の充実が今後の課題であると言えます。

②　学校図書館の利用の割合

「学校図書館へ行くことがありますか」　よく行く、ときどき行くと答えた割合

学年	令和２年度	平成26年度	増減の割合
小２	82.0%	87.6%	5.6ポイント減
小５	72.7%	71.8%	0.9ポイント増
中２	42.5%	23.1%	19.4ポイント増
高２	12.6%	13.1%	0.5ポイント減

中学２年生が、前回の低い割合から、大きく増加しています。学校図書館サポーターによる学校図書館整備が進んだことで、子どもが利用するようになったと思われます。一方、小学２年生の割合は減少し、小学５年生の割合はほとんど変わりませんが、それぞれ、高い水準を保っています。

このほか、読みたい本の入手方法についての設問には、小・中学生は「学校で借りる」、「本屋などで買う」との回答が半数以上を占め、高校２年生は「本屋で買う」、「家にある本を読む」との回答が半数以上を占めました。また、読みたい本を探す方法についての設問には、小・中学生は「学校の図書室」「本屋」との回答が多く、高校２年生は「インターネット」との回答が最多で、続いて「本屋」でした。また、「学校図書館へ行かない」理由として、「読みたい本が無い」との回答が、特に高校２年生に多くありました。

また、①②それぞれの問いについて、小学５年生と中学２年生は、前回調査と比べ割合が増加しており、関連性があることが分かります。

これらのことから、小・中学校の学校図書館に期待される役割の大きさがうかがえ、また、高等学校における学校図書館の書籍の充実や本を選択する際のサポートが求められていることがわかります。今後、市内全ての学校において、学校図書館の一層の充実が必要です。

③　図書館の利用の割合

「図書館や移動図書館車へ行くことがありますか」よく行く、ときどき行くと答えた割合

学年	令和２年度	平成26年度	増減の割合
小２	44.7%	49.2%	4.5ポイント減
小５	37.6%	48.3%	10.7ポイント減
中２	19.6%	23.6%	4.0ポイント減
高２	12.8%	12.3%	0.5ポイント増

小学５年生の減少が目立つほか、小学２年生、中学２年生も減少していますが、高校２年生は、ほぼ横ばいです。

図書館や移動図書館車に行かない理由についての設問では、小・中学生は「学校で借りる」、「買って読む」との回答が多く、一方、高校２年生は「読みたい本が無い」、「時間が無い」との回答が多くを占めました。

図書館や移動図書館車の利用促進においても、利用者が必要とする資料等を図書館員が検索や提供するレファレンスサービスの充実や、本を選択する際のサポート、書籍の充実、特設コーナーなどを利用した書籍の紹介などの工夫が必要です。

④　本を読まなかったのはなぜですか。

第１位の回答項目

学年	令和２年度	割合	平成26年度	割合
小２	友だちと遊ぶ	18.0%	ゲームやインターネットをする	35.7%
小５	ゲームやインターネットをする	32.5%	読みたい本が無い	22.5%
中２	ゲームやインターネットをする	26.4%	本を読むのが好きでない	24.9%
高２	本を読むのが好きでない	20.0%	読みたい本が無い	29.9%

余暇の過ごし方として、読書と比較すると、ゲームやインターネットに魅力を感じる割合が増加傾向にあるようです。一方、読まなかった理由として、「本を読むのが好きではない」と回答した割合は、平成26年度と比較してすべての学年で減少しており、取捨選択の結果として、読書時間の減少につながっていることがうかがえます。

そうしたことから、子どもに対して、本や読書の楽しさや大きな価値というものを伝えていく必要があります。

⑤　わからないことや知りたいことがあるときに調べる方法

「わからないことや知りたいことがあるとき、どうやって調べますか」多い回答の上位　　**令和2年度調査**

学年	１位	割合	２位	割合
小２	学校の図書室で調べる	18.5%	先生に聞く	16.5%
小５	インターネットで調べる	32.1%	身近な人に聞く	21.3%
中２	インターネットで調べる	40.4%	身近な人に聞く	22.5%
高２	インターネットで調べる	52.6%	友だちに聞く	18.8%
全体	インターネットで調べる	32.9%	身近な人に聞く	19.5%

小学２年生は、「学校の図書室で調べる」、「先生に聞く」が上位で、学校の図書室や先生の役割が大きいことがわかります。しかし、その他の学年では「インターネットで調べる」が非常に多く、次に多い回答が「人に聞く」ことで、聞く相手は、身近な人や友だちとなっています。

また、パソコンやスマートフォン、タブレットでの読書経験についての設問で、「よく読む」「ときどき読む」と回答した割合は、小学生では約30%、中学・高校生では約40%でした。このうち、電子書籍のほかに紙媒体の本も読むかの問いに対して「紙の本は読まない」と回答した割合は、小学生が13%程度、中学生が16%、高校２年生で28．2%でした。

このことから、書籍媒体の多様化が浸透し、隙間時間に読める手軽さなどから、今後、電子書籍の需要がますます高まりを見せることが予測されます。

⑥　保護者へのアンケート結果から

（1）「子どもが本を読むようになるには、どうすれば良いと思いますか」多い回答の上位

幼稚園年少児の保護者の回答

	令和２年度		平成26年度	
１位	子どもが小さい時から読み聞かせをする	23.9%	子どもが小さい時から読み聞かせをする	25.4%
２位	家庭での読書環境を整える	16.3%	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	17.0%
３位	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	13.8%	家庭での読書環境を整える	16.9%

小学５年生の保護者の回答

	令和２年度		平成26年度	
１位	子どもが小さい時から読み聞かせをする	20.4%	子どもが小さい時から読み聞かせをする	21.3%
２位	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	15.8%	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	17.7%
３位	家庭での読書環境を整える	12.2%	家庭での読書環境を整える	14.6%

幼稚園年少児･小学５年生の保護者の回答として、今回、前回アンケートともに、第１位が「子どもが小さい時から読み聞かせをする」で、子どもに読書習慣を身につけさせるために最も良いと思われています。第２位、第３位の回答からも、本に触れられる機会や環境づくりが大切であると思われていることがわかります。

また、子どもに対して読み聞かせ等をするかとの設問には、「よくする」、「ときどきする」と答えた割合は平成26年度と比較して微増となっています。これは、親が読み聞かせの効果に期待しているということの表れや、ブックスタート事業の効果とも考えられます。

一方、子どもの成長に読書が必要かとの設問には、「どちらとも言えない」と答えた割合は増加しています。

（2）「子どもに読む本はどのようにして用意していますか」多い回答の上位

幼稚園の年少児保護者　　**令和2年度のみの設問**

１位	幼稚園で借りる	31.7%
２位	家にある本を読む	26.2%
３位	本屋などで買う	24.3%
４位	図書館や移動図書館車で借りる	12.3%

「幼稚園で借りる」ことが、最も多いため、幼稚園でいろいろな本をそろえることが大切ですが、一方、団体貸出しの利用促進や、親子で図書館を利用することによっても、多くの本にふれることができる機会が増えます。図書館では、親子が本選びや読み聞かせを通して、語らいの時間を持つことができます。

こうした結果から、次に挙げる課題を読み取ることができます。

１．学校図書館や市立図書館等における図書の充実

（１）幼稚園・小学校を中心に実施している団体貸出の拡充

（２）利用者からの書籍のリクエストを反映させる取組の拡充

２．貸出時におけるサポートの充実

（１）学校図書館サポーターや図書館職員による図書の紹介やレファレンスサービスの拡充

３．読書機会の創出

（１）移動図書館車利用の拡充

（２）多様な背景のある子どものための読書機会の充実

（３）電子書籍の活用

４．読書に関する気運の醸成

（１）発達段階に応じた取組の充実

子どもたちは、読書よりも、ゲームやインターネットに魅力を感じているという傾向が強まっていることから、子どもに対して、読書を楽しむことや読書の意義というものを伝えていく必要があります。

具体的な取組事例として、本を読みたくなるような情報が子どもたちに届くよう、多様化する興味に応える資料の情報提供のために、読み聞かせに加えブックトークや、読んだ本の情報交換ができるビブリオバトル等の実施が挙げられます。

また、自ら課題を見いだし、必要な情報を集めて課題を解決するという、生涯学習の基礎となる情報活用能力の育成には、学校図書館が「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」として、また、電子資料を含めた多岐に渡る資料を調べることができる場所として整備されることが望まれます。知りたいことを調べる手段をインターネット情報だけに頼るのではなく、本やその他の情報源により多岐に渡る情報を読み、考え、そして判断していく手段を学ぶことは、情報化が一層進展する社会に生きる子どもたちにとって重要な力になると思われます。

この第４次推進計画では、こうした課題やこれまでの成果を踏まえ、読書活動の推進に取り組みます。

※「ブックトーク」 あるテーマに沿って複数の本の内容を紹介し、読書意欲を起こさせる活動。多くは学校や図書館などで、子どもを対象に行われます。

※「ビブリオバトル」 お気に入りの本を持って集まり、そして一人ずつ５分間、本の紹介をします。そして、「どの本が一番読みたくなったか」を投票で競います。「人を通じて本を知る、本を通じて人を知る」だれもが開催できる本のコミュニケーションゲームです。

第２章　基本的な考え方

１　第４次推進計画の策定趣旨

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年公布・施行）に基づき、国は平成14年（2002年）以降、おおむね５年をめどに「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（以下「基本計画」という。）を定めています。

各基本計画は前計画の成果と課題を検証し、今後の施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするものであり、平成30年４月には、第３次基本計画の成果と課題を踏まえて、第４次基本計画が策定されました。

県では、国の基本計画に基づいて、平成15年11月（第１次）、平成21年３月（第２次）、平成26年10月（第３次）に「徳島県子どもの読書活動推進計画」（以下「県推進計画」という。）を策定しました。それらの県推進計画において、「全ての子どもが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学ぶことのできる力を養う」という共通理念の実現のため、子どもが自主的に読書活動に取り組むことのできる環境の整備、社会的気運の醸成に努めてきました。

第３次県推進計画中には、全市町村で「子どもの読書活動推進計画」が策定され、子どもの読書に関するボランティア団体数が増加するなど、子どもの読書活動を支える環境整備が前進しました。その第３次県推進計画の成果や課題を明らかにし、今後の施策の方向性や取組を示すものとして、令和元年10月（2019年）に第４次県推進計画を策定しています。

本市においては、国の基本計画、県推進計画に基づいて、平成17年３月（第１次）、平成22年３月（第２次）、平成28年３月（第３次）に「鳴門市子どもの読書活動推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、子どもが自主的に読書活動に取り組むことができる環境整備や社会的気運の醸成に努めてきました。

この期間中、保育所（園）、認定こども園、幼稚園、小・中学校等における読書活動の推進や、ボランティア団体の活動が活発化し、学校や市立図書館、ボランティア団体の連携も進んできましたが、子どもの読書環境の整備や学校図書館の活性化などに課題もあります。このため、国・県の計画の趣旨を踏まえ、令和３年２月に「鳴門市子どもの読書活動に関するアンケート調査」を実施し、第３次推進計画期間中の成果と課題を明らかにし、今後の施策の方向性と具体的な取組を示すものとして「第４次推進計画」を策定します。

２　第４次推進計画の基本方針

「読む力」は最も基本的な学力の一つであり、読書活動は、論理的な思考力や豊かな感性を養うとともに、主体的に学ぶ力、さらには知的活動の基礎をはぐくみます。学ぶ力や知的活動の基礎となる自主的な読書活動は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第２条や「文字・活字文化振興法」第１条が規定するように、人格の完成と個人の能力の伸長、主体的な社会参画を促すものとして、民主的で文化的な社会の発展に不可欠なものです。

今、社会において国際化や高度情報化がますます進展する中、世界の中でよりよく生きていくことが大切です。また、国際社会に貢献し、世界の人々から信頼される人となるためには、異なる文化をもつ人々と協調していく必要があります。そのためには、子どもたちが日本の伝統・文化のよさや豊かさに気付き、その価値や意義を理解するとともに、郷

土や自国に誇りと愛着をもつことが大切です。

また、近年「SDGs（持続可能な開発目標）」の認識や取組が進展しています。そこには、国際連合によって、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標が定められており、その中の目標の一つとして、「だれ一人取り残さず、すべての人々に質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進すること」が求められています。

幼少期から子どもたちが読書の習慣を身につけることは、新しい時代を担う子どもたちが読書活動によって自らの心を育て社会に目を開くとともに、未知なる世界への関心を高め、国際社会への貢献や、郷土に誇りや愛着を持つための第一歩となります。また、読書活動の推進は、すべての人々に質の高い教育を提供することにもつながるものであり、そうした取組は、子どもたちが生涯にわたって「主体的に生きる力をはぐくむ」とても大きな価値をもっているのです。

そこで、「第４次推進計画」においては、すべての子どもが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学び、課題を解決し人生を切り拓いていく力を養うため、子どもの読書活動の意義や重要性についての理解や関心を深め、家庭や地域、学校の連携のもと市民総ぐるみで、すべての子どもが主体的に読書活動に取り組むことのできる環境を整備することを目指します。

３　第４次推進計画の目標

この推進計画の目標は、

「絵本の読み聞かせを原点とした読書に親しむ『鳴門モデル』を通して、すべての子どもが主体的に 読書活動に取り組めることを目指します」

とします。

「鳴門モデル」の具体的な取組の一例としては、

(1) 家庭では、ブックスタート事業の充実による親子で絵本に親しむ機会を創出します。

(2) 地域では、鳴門教育大学英語絵本コーナー活用による「英語絵本の読み聞かせ」の普及を図ります。

(3) 学校等では、幼児教育から高等学校まで、カリキュラムの中に読書の時間を設けることを目指します。

① 保育所・認定こども園・幼稚園：「１日１話」の実施と１日１回の絵本の読み聞かせを継続します。

② 小学校・中学校・高等学校 ： 読み聞かせの実施や読書時間の確保を推進します。

４　第４次推進計画の対象

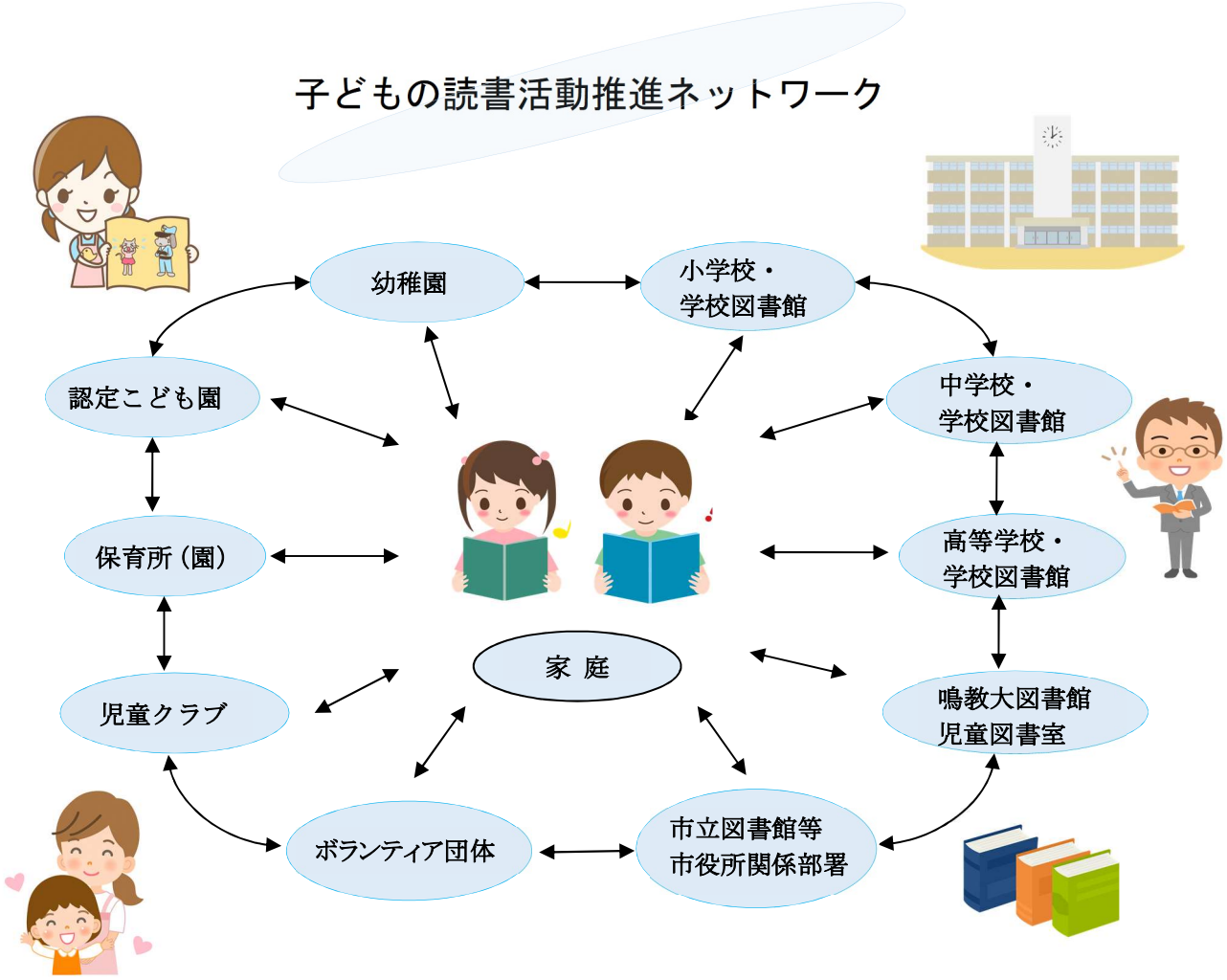
この推進計画の対象は、主に０歳からおおむね１８歳までの子どもとします。

５　第４次推進計画の期間

この推進計画の期間は、令和４年４月(2022年)からおおむね５年間とします。

6　第４次推進計画の体制

すべての子どもが、主体的に読書活動に取り組むことができるために、本市においては、この「第４次推進計画」に基づき家庭、地域、学校、図書館などの社会教育施設やボランティア団体等が相互に連携協力することを、「子どもの読書活動推進ネットワーク」と位置づけて、子どもの主体的な読書活動を推進するための環境整備を図ります。



学校や各種施設・団体、家庭が連携して 子どもの主体的な読書活動を推進

7　第４次推進計画の体系

第４次推進計画の目標を達成するために、４つの分野で方策を定め活動を推進します。

【 目 標 】

絵本の読み聞かせを原点とした 読書に親しむ「鳴門モデル」を通して、すべての子どもが主体的に 読書活動に取り組めることを目指します。

第４次推進計画の体系

子どもの読書活動推進のための方策

１．家庭における「子どもの読書活動」の推進

（１）ブックスタート事業における活動の推進

（２）家庭における活動の推進

２．地域における「子どもの読書活動」の推進

（１）市立図書館における活動の推進

（２）鳴門教育大学附属図書館児童図書室における活動の推進

（３）児童クラブにおける活動の推進

（４）ボランティア団体における活動の推進

３．学校等における「子どもの読書活動」の推進

（１）保育所（園）、認定こども園、幼稚園等における活動の推進

（２）小学校における活動の推進

（３）中学校における活動の推進

（４）高等学校における活動の推進

（５）小･中学校の学校図書館サポーターによる学校図書館活性化の推進

４．市立図書館、学校、ボランティア団体等の連携や協力の推進

第３章　「子どもの読書活動推進」のための方策

１　家庭における「子どもの読書活動」の推進

子どもの読書習慣は、乳児期・幼児期における日常の家庭生活が出発点となり形成されていくものであり、親子のふれあいや様々な体験、ことばかけ、とりわけ乳幼児期における絵本の「読み聞かせ」によって、子どもは物語を頭の中に描き出し、言葉を理解していくようになります。また、互いに肌のぬくもりを感じながら行われる絵本の読み聞かせによって、子どもは読書の楽しさを感じ、それが後の読書習慣を育てることにつながっていくこととなります。

子どもの読書習慣を定着させるためには、保護者や家族が読書に親しむ姿を見せたり、読み聞かせをはじめ、子どもと一緒に本を読み、感じた想いを伝えあったりするなど、家庭の中に読書を楽しむ雰囲気を作り、その後の成長期にも、そうした「読み聞かせによる絵本のまちづくり」に向けて取り組んでいくことが大切です。

（１）ブックスタート事業における活動の推進

〈 現状と課題 〉

① ブックスタート事業は、赤ちゃんとその保護者の方に、絵本を開く楽しい体験とともに絵本を手渡すことにより、絆を深め合い、子どもの豊かな人間性をはぐくむ活動です。令和元年度までは４か月健診の場を活用して実施してきましたが、令和２年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から、市役所窓口で絵本を各家庭個別に配布しています。絵本を配布する際に、読み聞かせのためのアドバイスやおすすめの絵本紹介などをまとめたチラシをお渡しするほか、市立図書館発行の「子どもしつだより（本の紹介）」や読み聞かせの行事の案内も一緒にお渡ししています。コロナ禍にあっても、親子で絵本に親しむ環境づくりを進めています。

② ブックスタートの絵本配布時に、読み聞かせ体験ができていないことから、読み聞かせの効果を実感する機会が減少しています。今後は、より家庭で絵本を子どもと一緒に読みたいと思う取組を充実させることが望まれます。

ブックスタート事業
（子どもいきいき課）

赤ちゃんと保護者に
窓口で絵本を
お渡しする様子

【 重点目標 】

○ より一層、子育て家庭が絵本に親しむよう、読み聞かせ行事への参加を促進するとともに、保護者への啓発を充実させます。

具体的な取組

○　子どもいきいき課、健康増進課、市立図書館、ボランティア団体が、連携や協力をしてそれぞれの立場から絵本との出会いの場を提供し、乳幼児期からの読み聞かせ等の重要性の啓発に努めます。

○　ブックスタートの絵本配布時に、保護者に絵本の読み聞かせのためのアドバイスやおすすめの絵本についての案内を行ったり、市立図書館で実施している読み聞かせの行事を積極的に周知したりすることで、本に親しんでもらえる機会をつくります。

○　お子さんの名前が入った絵本を届けることで、親子で絵本に親しむきっかけづくりに繋げます。

（２）家庭における活動の推進

〈 現状と課題 〉

①　共働きや核家族など、様々な家庭環境がある中、生活の中で読書に充てる時間を割り振るマネジメントが必要です。

②　近年における家庭での読書に関して、子どもからは「ゲームやインターネットをする」、「習い事や部活が忙しい」、「テレビやＤＶＤを見る」等の実態が見られます。

③　読書について、小学生の保護者からは「どちらかといえば好き」、「好き」との回答が約８割あります。また、子どもに絵本や本を読み聞かせたり、昔話などを語ったりすることについては、「ときどきする」、「よくする」との回答が約８割あります。そうした読み聞かせなどをしない理由については、「家事が忙しい」、「仕事が忙しい」との回答の割合が多くなっています。

④　10年ほど前と比べると、市立図書館への父親の来館者が増えてきており、父親も育児や子どもの読書に関心をもってきていることがうかがえます。

【 重点目標 】

○ 大人が子どもたちと、一緒に読書を楽しむ家読（うちどく）の推進と啓発を図ります。

○ 家庭で、子どもたちに、読書をすることの大切さを伝えます。

具体的な取組

○　読書のある生活への第一歩として、子どもの成長において読書の意義や重要性を保護者が理解し、実践することが重要です。難しく考えることなく、まずは子どもが興味を示す本を手にして一緒に楽しむことや、大人たちが面白いと感じる本を子どもたちに薦めてみることから始めます。

○　子どもが読書習慣を身につけるには、普段から身近な場所に本があり、大人が本に親しみ楽しんでいる姿を見せるなど、家庭においてそうした読書環境をつくっていくことが大切です。

2　地域における「子どもの読書活動」の推進

子どもが、それぞれの成長に応じ、生活のあらゆる場で本に親しみ、読書習慣を身につけるために、子どもたちが自由に本を手にすることができる環境づくりに地域全体で取り組むことが求められます。地域には、子どもの読書活動に関して大きな役割を持つ、次のような施設や団体等があります。

地域の読書活動を支える拠点である市立図書館では、図書を収集、保存して、利用者に貸出し、その教養、調査研究、レクリエーションに資する役割を果たしています。また、ボランティア団体との連携を進め、子どもの読書活動を推進する地域のネットワークの中心的役割も担っています。

また、地域の子どもが、気軽に本を手にすることができる機会を提供するといった大切な役割を担っている児童クラブでは、日常的に職員による読み聞かせが行われるほか、子どもたちのリクエストに合わせた絵本などの購入を積極的に行うことで、子どもたちの本への興味・関心を高めています。

さらに、子どもの読書活動に関わる様々なボランティア団体は、地域の読書活動ネットワークの担い手として、あらゆる場所での活動が期待されます。

（１）市立図書館における活動の推進

〈 現状と課題 〉

① 市立図書館はいつでも子どもが読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができる環境を整えています。

② 平成19年２月(2007年)にパソコンや携帯電話等からのインターネット予約を開始し、利用者の多様化したライフスタイルに対応した市民サービスの向上に努めています。

③ 毎月４～５回、図書館職員やＡＬＴ(外国語指導助手)、ボランティアにより絵本を読み聞かせる「おはなしたいむ」や、大学生ボランティアによるおはなし会、赤ちゃんを対象にしたおはなし会を開催するなど、幼いときから本に親しみ、読書の喜びや楽しさを味わう機会を提供しています。

④ 市立図書館では、春の「こどもの読書週間」や「子ども読書の日」、秋の「読書週間」、「鳴門市立図書館月間」に、子どもの読書活動推進に関する展示や行事を実施しています。

⑤ 「読書感想画コンクール」鳴門市優秀作品を展示し、感想画に画かれた本も併せて展示しています。

⑥ 学校支援として、幼稚園や小学校等へ絵本や読みものを中心に団体貸出を実施しています。

⑦ 学校図書館支援として総合的な学習や調べ学習のための図書館資料や、子どものリクエストに応えた図書館資料の貸出を随時実施しています。

⑧ 遠隔地にある幼稚園、児童クラブ、小学校、公民館等を中心に移動図書館車による巡回を実施し、利便性の格差是正に努めています。

⑨　ブックスタート事業では、協力機関である市立図書館の利用案内や、「子どもしつだより（絵本の紹介）」で情報提供を行うことで、読み聞かせの普及に取り組んでいます。

⑩　子どもの読書活動やネットワーク化の推進のために、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、児童クラブ、小･中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体等が、一層の情報交換や情報共有を広めることが望まれます。

⑪　中学生・高校生の職場体験を受入れ、図書館への理解や関心を高めています。

⑫　平成19年３月(2007年)に鳴門教育大学附属図書館と市立図書館の連携協力に関する覚え書きを交わし、相互理解のもと幅広い連携を図っています。

市立図書館での小学生の見学

児童図書室で質問をしたり説明を受けたりします。

中学生の職業体験

市立図書館で本を管理するためのシールを貼り付けます。

【 重点目標 】

○ 子ども向けの絵本や本、資料の整備のほか、本に関する情報を発信します。

○ 各種機関・学校・図書館・民間団体等との連携を図り、読書を推進するまちづくりに取り組みます。

具体的な取組

○　子ども向けの本や資料の充実に向け、学校図書館担当者、学校図書館サポーター、ボランティア団体との連携を密にし、子どもの学年が上がるにつれ多様化する興味に沿った資料、特に中学･高校生のニーズに応えられる資料を幅広く収集します。

　また、特別な支援を必要とする子どもの状況に応じた資料をそろえ、子どもの本の資料

センターとして、市内の関係機関への資料提供支援を効率的に行います。

○　子ども向け本や資料を情報提供するため「子どもしつだより」を年５回発行し、話題の本や新着本の情報提供を行います。

○　子どもが本に興味を持ち、読書や調べることへの関心を深めることができるように「おはなし会」などの読書に関するイベントや展示会を開催します。

○　子どもの読書に関わる方に、「子どもの読書活動」に関する情報の発信を行います。また、大型絵本やエプロンシアター等のおはなしの道具を貸し出し、活動を支援します。

○　市公式ウェブサイト（図書館情報欄）の「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」などで、保育所（園）、認定こども園、幼稚園、児童クラブ、小・中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体、鳴門教育大学附属図書館も含めた市全域の情報交換・情報共有化を図り「子どもの読書活動推進ネットワーク」の充実に努めます。また、市内の小・中学校教育研究会特別支援教育部会とボランティア団体のコーディネートを行い、特別な支援を必要とする子どもへのサポートをします。

○　ボランティアの養成、資質向上を図るための講座や読み聞かせ講座等を開催するとともに、読み聞かせ、おはなし会等の実施や図書の修繕等に関する相談に応えるなどボランティア活動を支援します。

※「エプロンシアター」　エプロンを舞台にみたて、ポケットから次々とおはなしの主人公を取り出し、エプロンにつけたり、ポケットにもどしたりしながらお話しをします。

貝って、たくさんの
種類があるんだな

市立図書館ロビーでの
特設展示

自然科学の本にも興味をもつように、世界中の珍しい貝を展示しました。

（２）鳴門教育大学附属図書館児童図書室における活動の推進

〈 現状と課題 〉

①　鳴門教育大学附属図書館児童図書室（以下、「児童図書室」という。）は、地域に開かれた大学の理念を実現する一環として、地域の子どもや乳幼児を持つ保護者、一般市民の方に、水曜・土曜・日曜日と祝日の午後１時から午後４時までの時間、一般開放しています。

スタッフと主に児童文化研究会のボランティア学生が協力し、0歳からの子どもたちが、保護者と安心して楽しく過ごせる環境を提供することに努めてきました。児童図書室の周辺に響き渡る小さな子どもたちの歓声は、「キャンパスの四季を彩る風物詩」と称されています。

② 令和２年(2020年)、新型コロナウイルス感染症の影響によって、その歓声は消えてしまいました。これまで35年間にわたって、子どもたちがボランティア学生と出会い続けてきた児童図書室は、地域の小さな子どもたちと学生が出会う場です。教員養成を使命とする大学として、学内にこのような空間を維持してきた意義は計り知れません。どのような時代になっても、子どもたちとの直接のふれあいを、オンラインに置き換えることはできないと考えています。

③ 児童図書室は、面積134㎡、蔵書19,829冊（令和２年12月末現在）のささやかな存在ですが、児童図書室の歴史と伝統の中で、子どもたちは、学生たちによる絵本の読み聞かせや紙芝居などを通して、絵本をはじめとする児童図書の世界へ誘われてきました。児童図書室は、未来を担う子どもたちに児童図書とその読書とを手渡す役割を果たしています。

④ 児童図書室内には、積み木や折り紙、ぬいぐるみ等の玩具を備え、保護者が選書をしている間、主に児童文化研究会のボランティア学生が、子どもたちに読み聞かせをしたり、玩具を使って一緒に遊んだりする活動を続けています。

⑤ 児童図書室の活動は、その立地条件もあって狭い範囲に限定されがちです。令和元年４月、児童図書室に英語絵本コーナー KIDS ENGLISH LIBRARY を開設しました。これを機に、英語絵本を含む絵本の読み聞かせを、読書活動推進の「鳴門モデル」として、鳴門市や徳島県はもとより、ウェブサイトを通して世界へ発信していくことが課題です。

【 重点目標 】

○ 新型コロナウイルス感染拡大の中でも、子どもたちは、優しく見つめられ、語りかけられ、抱きしめられ、欲求が受け止められるような環境で、直に絵本の読み聞かせをしてもらうことが大切であると改めて実感されています。

児童図書室では、「絵本の読み聞かせ」を 人と人とのふれあいの中で読書文化が継承される「鳴門モデル」として、世界に情報を発信します。

具体的な取組

○ 学生がボランティアとして、保育所(園)や認定こども園、幼稚園、学校等に出向き、子どもたちに絵本の読み聞かせを行い、保育・教育施設等における絵本の「読み聞かせ文化」の醸成に貢献します。

○ 児童図書室は、児童文化研究会と協力して、絵本の読み聞かせや紙芝居を日常的に行います。また、イベント（おぎゃっと21への参加、七夕会、冬のお楽しみ会、おはなし会、人形劇の公演等）を開催し、子どもたちの読書への興味・関心や意欲の形成に努めます。

○ 英語絵本コーナーKIDS ENGLISH LIBRARY の活動を充実し、英語絵本の読み聞かせの普及を図るとともに、英語教育の推進を支援します。

鳴門教育大学附属図書館
児童図書室での取組

絵本のよみきかせ
（写真左・左下）

英語絵本コーナー
KIDS ENGLISH LIBRARY（写真右下）

（３）児童クラブにおける活動の推進

〈 現状と課題 〉

① 日常的に職員による読み聞かせが行われるほか、子どもたちのリクエストにあわせた絵本などの購入を積極的に行うことで、子どもたちの本に対する興味や関心を高めています。

② 絵本等の児童図書を活用した読み聞かせや読書タイムを設けるなど、読書活動の推進に努めています。

③ 保護者や地域のボランティア団体などによるおはなし会は、子どもが読書に親しむ機会となっています。

④ 図書の貸出を行っている児童クラブもあり、家庭での読書を支援するとともに、親子のコミュニケーションを豊かにしています。

⑤ 読書環境を整えるため、市立図書館や移動図書館車を活用して、児童図書の充実にも努めています。

⑥ 児童自らが興味のある図書やメディアを選べる年齢であることから、それぞれの年齢にあった多様で良質な図書を提供するため、市立図書館や学校等と連携してくことが求められます。

⑦ 今後も新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を受けながらの事業の推進が想定されますが、そうした中でも、より児童自らが本に親しむような環境整備を図る必要が

あります。

【 重点目標 】

○ 子どもたちへの読み聞かせのほか、子どもや保護者の本に対する興味や関心を高める取組を行います。

○ 市立図書館やボランティア団体と連携した読書環境の整備と読書活動の推進を図ります。

具体的な取組

○　今後も子どもたちへの絵本の読み聞かせを行い、また、保護者に対しても、親子で楽しめる本の紹介など、絵本を通じて子どもとの関わりを持つことの魅力を周知・啓発していきます。

○　子どもが本に親しむ機会を提供するための読書環境の整備や充実に努めます。「児童クラブだより」を通じて、保護者に子どもの読書の楽しさや読書の時間を持つことの重要性について理解を深めます。

○　支援員の読書活動に関する意識を高めるため、研修会等に参加し、読書活動の充実を図ります。

○　市立図書館やボランティア団体と連携を図りながら、おはなし会などの活動を推進します。

（４）ボランティア団体における活動の推進

市内の各幼稚園、小･中学校等にはそれぞれ地域の方によるおはなしボランティア、学校図書館ボランティアが活動を続けています。また、市立図書館を官民一体で運営している認定NPO法人「ふくろうの森」にある「ありんこの会」では、様々なボランティアの情報交換やボランティアの資質向上のために活動しています。

読み聞かせのボランティアの他に、視覚障がい児が絵本を楽しめることを願い「さわる絵本」を製作し、徳島視覚支援学校と市立図書館に寄贈をしている認定NPO法人「ふくろうの森」、さわる絵本の会「ふわふわ」も活動をしています。

このように、市内には子どもの読書活動を支援するボランティア団体がたくさんあり、相互の情報交換により活動を深めています。

〈 現状と課題 〉

① 各幼稚園、小･中学校ではＰＴＡ活動やＰＴＡのＯＢによる読み聞かせボランティアの「絵本の読み聞かせ」をするなど、ボランティア活動が充実してきていると思われます。

② 読み聞かせの機会は、小学校までは定着しつつあると思われ、中学生も楽しみながら、聞く力を養うことができるように、ボランティアの資質向上とともに、お話を聞くことに対する理解と機会の増加が望まれます。

③ 各ボランティアの大きな課題は会員不足であり、世代交代が図れるような新しい会員の確保が望まれます。

④ 認定NPO法人「ふくろうの森」、さわる絵本の会「ふわふわ」は、徳島視覚支援学校と連携し、活動をしています。今後、市内の特別支援学級とのつながりが望まれます。

【 重点目標 】

○ 市内ボランティア間の活動の情報共有を図ります。

○ 赤ちゃんから高校生までの、子どもの成長に合わせた読書活動の特徴を通観し、それぞれの年齢に合った読書活動の推進に活用できるように研修を図ります。

具体的な取組

○　それぞれのボランティア活動を継続します。よりよい活動に向けて、活動しやすい体制がつくれるように工夫します。

○　ボランティア各自の資質向上を目指します。認定ＮＰＯ法人「ふくろうの森」の「ありんこの会」では研修会を開催したり、ボランティア養成講座等に参加したりして、定例会や機関紙等で情報を発信することで、研修内容を共有します。現役の母親の読み手の参加が少ないため、ボランティアの人員確保に努めます。子どもたちが、読書への関心を高めるため、読み方や絵本のことを勉強し、資質向上を目指すとともに、各学校ボランティアとの情報交換に努めます。

○　さわる絵本の会「ふわふわ」は、活動内容やさわる絵本についてもっと知ってもらうための広報活動に力を入れるとともに、市内の特別な支援を必要とする子どもへのサポートについて可能性をさぐるため、市立図書館と連携を図りながら本市の小･中学校教育研究会特別支援教育部会と交流に努めます。

さわる絵本の会「ふわふわ」の取組

布などの素材を台紙に張り付けた「さわる絵本」は、触って鑑賞できます。

3　学校等における「子どもの読書活動」の推進

保育所(園)、認定こども園、幼稚園等において、「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」に示されている、子どもが絵本等に親しむ活動を積極的に行い言葉に対する感覚を養うとともに、身近な存在である保護者や保育士、保育教諭、幼稚園教諭などが読み聞かせ等の働きかけを積極的に行うことが重要です。また、ボランティア団体との連携を深め、幼児期の子どもに読書の楽しさを知らせ、感性を

磨き、豊かな心を育むことが大切です。

学校においては、これまでも学習活動などを通して読書活動が推進されています。国語科を中核に、各教科、全校一斉の読書活動や読み聞かせなどあらゆる学習活動を通じて読書の楽しみを実感させ、学校や家庭における子どもの読書習慣を身につけさせることが大切です。

子どもの発達段階に応じた読書指導や学校図書館の活性化、市立図書館とボランティア団体との連携により強化した様々な取組の実施とともに、「読書の生活化プロジェクト」を推進し、生涯にわたる読書生活の基礎の確立を図ることによって、子どもたちは「生きる力」の基礎を身につけることができます。

また、市内小・中学校全校に配置された学校図書館サポーターは、図書担当教員と協力して、図書購入の支援や、図書システムによる図書の整理・管理、読書活動の推進（図書委員会との連携、読み聞かせ、読書イベント）、授業に関連する図書の準備や調べ学習補助、図書館利用教育のほか、公共図書館や外部団体、ボランティアとの連携等に従事しています。

（１）保育所（園）・認定こども園・幼稚園等における活動の推進

〈 現状と課題 〉

① 保育施設では、日常的に職員による読み聞かせが行われており、子どもたちが絵本に親しむほか、保護者に対して絵本の紹介や貸し出しも行い、親子で絵本に触れる機会を提供しています。

② 幼稚園では、担任による一日一話の継続、一人一冊の月刊誌の精選のほか、本に興味や関心をもたせるための絵本の精選を実施しています。また、市立図書館の団体貸出や移動図書館などを利用し、より多様な絵本に触れる機会の提供に心がけています。

③ 子どもが絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像しながら本を開く楽しさが味わえるように、保育士や保育教諭、幼稚園教諭自身もいろいろな絵本を読んだり、情報を収集したりしながら、読書活動の意義への理解を深めるとともに、絵本の読み方や選び方の向上や環境を工夫できるよう資質向上に努めていきます。

④ 園だよりや参観日、図書館からの通信等、絵本の紹介や催しの案内などを通して絵本を開く楽しさが子どもだけでなく保護者にも伝わるように積極的な啓発を行っていきます。また、絵本の貸出を行うことで、保護者に絵本の魅力を伝えたり、親子の触れ合いによる対話の機会が多くもてるようにしたりするなど、絵本を楽しむ経験を多く取り入れていきます。

【 重点目標 】

○ 「読書の生活化プロジェクト」の推進（幼稚園）や、各種機関・保育所（園）・認定こども園・幼稚園・学校・市立図書館・民間団体との連携を図ります。

具体的な取組

○ 保育施設では、今後も子どもたちへの絵本の読み聞かせを行い、また、保護者に対しても、親子で絵本に親しんでもらえる絵本の紹介など、絵本を通じての子育ての魅力を周

知・啓発していきます。

○　担任による一日一話の継続により、言葉と心を豊かにする絵本の読み聞かせを通して、豊かな感性の育成を図ります。

○　保護者に絵本の紹介や催し物の案内など、積極的に読書の啓発を行います。

○　「読書の生活化プロジェクト」を推進し、家庭における読書の推進に取り組みます。

○　民間団体との連携や異年齢間交流を推進するため、読み聞かせボランティア、おはなし会、人形劇などの幅広い取組の実施を促します。

○　子どもの興味・関心にそった絵本コーナーの整備により、子どもが絵本を選びやすく、親しみやすい環境づくりに努めるとともに、保護者にも開放することによって、家庭での読み聞かせの増加につなげます。

○　保育士、保育教諭、幼稚園教諭が読書活動に関する研修により、読み聞かせの技術や、子どもが絵本や物語に親しめる環境づくりについて、理解や資質の向上を図ります。

○　「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」を活用し、保育所（園）、認定こども園、幼稚園における実践事例や先進的な取組に関する情報提供・情報交換を積極的に行います。

（２）小学校における活動の推進

〈 現状と課題 〉

①　全小学校で朝の読書活動が実施されているほか「家庭読書の日」や「親子読書」など、家庭における読書活動が定着するよう熱心な働きかけがなされています。また、ほとんどの学校が、読書カード・読書のしおり等で読んだ本を記録し、多読賞等の表彰をしています。独自のブックリストを作成している学校もあります。

②　図書委員会や学校図書館サポーターによる読み聞かせやおすすめ本の紹介が全小学校で実施され、読書週間等に読書まつり等の行事を実施している学校も多くあります。上学年による下学年への読み聞かせやペア読書を行っている学校もあります。

③　ボランティアによる読み聞かせが多くの学校で実施されており、地域との連携が強化されています。

④　学校図書館サポーターが全小学校に配置され、図書の紹介や配架の工夫など、読書活動の充実に大きく寄与しています。

⑤　市立図書館からの団体貸出をほとんどの小学校が利用しており、学級文庫などで活用しています。一方、子どもたちの移動図書館や市立図書館等の利用については十分とは言えません。

⑥　低学年においては家族や身近な人、教師による読み聞かせが多くなされています。今後、高学年でも身近な人や教師による読み聞かせの取組を大事にしていきます。

⑦　読書をしない理由として「ゲームやインターネットをするから」と回答する児童が増えてきており、読書が余暇の過ごし方として選択されるよう、読書の魅力や価値を伝えていく必要があります。

※「ペア読書」２人で同じ本を同時に30分で読み、読後にディスカッションを行う読書法です。

移動図書館車「こうのとり号」を見学する小学生

車の中にも、外側にも、本がいっぱいだね

幼稚園・小学校への団体貸出

貸出しをする学校ごとに、市立図書館で、本を箱詰めにします。

【 重点目標 】

○ 発達段階とその特徴を踏まえた読書支援を充実させます。

○ 学校図書館を活用した教科学習における探究活動の活性化を図ります。

具体的な取組

○ 「読書の生活化プロジェクト」を推進し、学校での読書活動の活性化を図りつつ、児童・保護者に読書の大切さを啓発します。

○ 児童の発達段階に応じた推薦図書の紹介・展示を実施するとともに、児童のアイデアを生かした図書館イベントの開催や、多様な読書法（ペア読書やブックトーク、アニマシオン、ビブリオバトル等）を取り入れた読書活動を企画し、児童が読書に対して能動的な関わりができる機会を設定します。

○ 学校の状況や児童の実態を踏まえた計画に基づき、計画的・系統的に児童の読書活動を推進します。各教科の授業の中にも、計画的に学校図書館の利用を位置付け、探究的な学習活動が充実するよう働きかけます。

○ 図書委員会の児童が図書館資料の選定に携わったり、同じ学年の児童に対して読書活動を広める企画を実施したりするなど、学校図書館の運営に主体的に関わることのできる機会を設定します。

○　学校図書館運営を支援する地域人材との連携を図るため、読書センターや学習センター、情報センターとしての学校図書館の機能強化に努めます。また、司書教諭や図書館サポーター、保護者、ボランティア等の協力により、読み聞かせの充実、学校図書館環境の整備等に努めたり、学校図書館を利用した授業の積極的な実施を促したりします。

○　市立図書館と鳴門教育大学附属図書館との連携を図るため、校外学習として地域の図書館を訪問する機会を設けるなど、地域の図書館の魅力を実感できるようにします。

○　教職員研修や研究会等で先進事例を学ぶ機会の充実等により、読書に関する指導力の向上を図ります。

※「アニマシオン」　スペインで開発・体系化された読書指導法（75種類ある）で、読書をゲームのように楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション能力を育てていきます。

（３）中学校における活動の推進

〈 現状と課題 〉

①　中学生については受験勉強や部活動などの時間が生活の大半を占めるため、じっくり読書をする時間は生み出せない傾向にあります。

②　読書量の格差や本に向き合う機会の減少などの課題が挙げられる中で、学校において 朝の読書時間や、昼の本の貸出の機会を持たせることで、読書率は年々増加傾向にあります。

③　学校図書館サポーターが全中学校に配置されており、図書の紹介については、配架を工夫するなど、読書活動の充実に大きく寄与しています。

④　読書活動の推進には、学校図書館の役割や教職員、地域ボランティア等からの読書に係る啓発は重要であると考えます。

⑤　生徒のスマートフォンの所有率増加やSNSなどの情報伝達手段の普及により、子どもの読書環境が大きく変化するとともに、読書の手法も多様化しており、この環境を生かした読書時間の増加に向けた取組が重要です。

⑥　義務教育最終の３年間において、生徒が本に親しみ自主的に読書の機会を持ち、読書を生活に役立てることができるように計画的、継続的に支援・指導していくことが必要です。

【 重点目標 】

○ 発達段階に応じた生徒の読書習慣の形成に向けた取組を充実させます。

○ 生徒の読書活動を支える環境（ハード面・ソフト面）の整備と充実を図り、子どもの読書活動の普及啓発を行います。

具体的な取組

○　発達段階に応じた読書習慣の形成に向けた取組を充実させるため「読書の生活化プロジェクト」を推進し、学校での読書活動の活性化を図るとともに、生徒や保護者へ読書活動の大切さを啓発します。

○　読書感想文・読書感想画コンクール、ビブリオバトル大会へ参加することで、読書の機会を増やすとともに、生徒が読書から得られた感動や考え、作品のイメージ、作者の意図などを表現する力を培っていきます。

○　生徒が主体的に読書活動の推進や学校図書館運営に携わるよう、生徒会活動の図書委員会を設定し、定期的に活動を行います。学校図書室の整理整頓やおすすめ本の紹介、購入希望図書アンケートなど生徒の視点や意見を取り入れて学校図書館の環境を整えます。

○　図書館サポーターや地域のボランティアなどの地域人材を活用した学校図書館整備や定期的な読み聞かせの実施等により、生徒の読書活動を支える環境の整備と充実を図ります。

○　学校図書館・図書資料の利用や読書活動の充実に向け、昼休みの図書館開放や本の貸出、授業での調べ学習等で、学校の図書館を生徒が活用しやすいようにします。短時間でも本に触れることや、本に触れるきっかけづくりとして、学級文庫や学年文庫を設置し、身近に読書できる環境を整えます。

○　生徒が興味・関心のある本や各学年で活用してほしい本などの提供として、修学旅行前に目的地の関連本や平和に関する本を紹介したり、職場体験学習前や防災学習の前に職業に関する本や防災関係の本を紹介したりします。教科や部活動に関する知識や技能、HOW TO本など、その時の話題の本や学習に関連する本を提供できるようにします。

○　教職員が読書活動の意義や生徒への効果などを共有するために、教職員への研修の充実を図ります。教職員が市立図書館や学校図書館の運営や蔵書について、把握や活用方法などをお互いに共有することで、生徒の本を読むきっかけや読書量の増加などにつなげていきます。

読書賞を受賞した生徒が
学校図書館で くじ引き（瀬戸中）

読んだ本の冊数によって送られる「読書賞」。景品を選ぶためのくじが引けます。

（４）高等学校における活動の推進

〈 現状と課題 〉

①　各高等学校の校務分掌の中で、学校図書館に関する課があり、そこには複数の教員と常勤の学校司書が配置されており、学校図書館の円滑かつ効果的な運営を担っています。

②　生徒会組織において生徒たちが運営する図書委員会があり、ビブリオバトルや読書会等の行事や広報活動などを通して、読書活動の活性化に努めています。

③　「鳴門市子どもの読書活動に関するアンケート調査（令和３年２月）」によると、不読率は62．2％（「問７」参照）となっており、その理由は「ゲームやインターネットをする」、「習い事や部活が忙しい」といった回答が多くを占めています。それらの要因が、読書から遠ざかることにつながっていると考えられます。

一方で「学校の図書室に行ったことがない」生徒は前回調査より減っています。これは、授業で図書館を利用する機会が増えたためであると考えられます。これらのことから、授業での利用回数を増やすことが読書習慣の形成に大きく寄与するものと考えます。

【 重点目標 】

○ 乳幼児期から、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、小・中学校へと積み上げられてきた読書習慣を途絶えさせず、発達段階に応じてさらに発展させていきます。

具体的な取組

○ 授業において学校図書館の利用を増やすために、司書教諭と教科担任の連携を進めるとともに、発達段階に適した蔵書の構築に努めます。

○ 生徒図書委員会による活動（例：ビブリオバトル、読書会、POPの作成、新聞感想文、読書感想文、絵本の読み聞かせ、学級文庫）などを通して、自主的な読書活動への興味・関心の向上を目指します。

○ 市立図書館、県立図書館、関係機関との連携を図り、より豊かな読書活動を推進します。

※ 「ＰＯＰ」 一般的には、購買意欲を高めるため店頭等に置く広告のこと。書店や図書館ではおすすめの本を目立たせるようにカード状のＰＯＰを本のそばに置くなどしてアピールしています。

図書館オリエンテーション

新入生が学校図書館を訪れ、図書館の利用方法の説明を受けます。

朝の一斉読書

読書週間の朝の10分間、それぞれが好きな本を黙読します。

※ 両写真とも鳴門渦潮高校。

（５）小・中学校の学校図書館サポーターによる学校図書館活性化の推進

〈 現状と課題 〉

① 子どもや教職員の要望、学習内容、子どもの発達段階を考え、無駄なく計画的に本を購

入できるようサポートをしています。学校図書館サポーターが本の登録・整備作業や蔵書管理を担当することで、図書担当教員の負担を減らすことに繋がりました。

② 「日本十進分類法（NDC）」に従って、本の主題（内容）に沿った分類・配架をし、棚見出し等の表示により子どもたちが本を探しやすくなりました。季節や行事に合わせた特設コーナーの設置等、本に興味・関心を持てるような工夫をしています。

③ 「朝読書」や「読書の時間」の導入による「学校で本を読む時間の確保」に合わせ、学校図書館で子どもの読みたい本を購入したり、おすすめの本を紹介したりすることで、子どもの読書活動を年間通して支援しています。

④ 図書館まつりや読書週間キャンペーン、多読賞の表彰等、読書の意欲がわくイベントを実施しています。

⑤ 授業に関連した本を購入したり、市立図書館や近隣の小・中学校から借りたりして準備し、本を使った調べ学習ができるよう支援しています。また、生涯学習としての公共図書館利用に繋げるため、図書館利用教育の支援も行っています。

⑥ 「学校図書館に専任の職員がいる」という環境は、児童・生徒にとって本の事を何でも話せる大人がいるという安心感に繋がります。また、学校生活の場である教室とは少し違う別空間である学校図書館は、第二の「居場所」としての役割も果たしています。

⑦ 学校図書館サポーターは月に一度、市内の学校を巡回して定例会を開催し、学校図書館の整備に関する情報交換や研修を行い、情報共有とスキルアップを図っています。

⑧ 平成28年度（2016年）に学校図書館サポーターが全校配置になり学校図書館の整備が進み、現在では鳴門市の学校図書館は県下の学校図書館を牽引していく立場になっています。貸出冊数も年々増え、「読書が好き」と答える子どもが増えてきました。しかし、全国的に見てもサポーターの勤務時数は少なく、理想とする学校図書館には遠い状態です。学校の規模により、蔵書購入費やサポーターの勤務時数（週に約３時間～10時間程度）に格差があることも課題です。

また、学校現場への一人一台のタブレット端末導入により、将来的には学校の蔵書検索をタブレットでできるようにし、図書室で本とインターネットの両方を活用した読書活動、調べ学習ができるように整備・支援していくことも今後の課題です。

【 重点目標 】

○ 本に興味・関心を持つきっかけを多くつくり、子どもたちに読書の楽しみを伝えます。

○ 子どもひとりひとりの特性や発達段階に合わせた選書をします。

○ 利用したいと思える魅力ある学校図書館をつくります。

○ 本について気軽に話題にすることができる居心地のよい空間をつくります。

具体的な取組

○ 読み聞かせや本の紹介、読書イベント、企画展示等を計画的に実施します。

○ 読書に支援が必要な子どもへ配慮（大型活字本や朗読ＣＤの提供等）をします。

○ 次の取組について、学校図書館サポーターとしての立場で積極的に支援します。

・ 学校における「読書の時間」、「学校図書館利用の時間」の確保
・ 子どもたちの興味があることや本の感想などを気軽に話せる雰囲気づくり
・ 学校図書館での調べ学習や図書館利用教育
・ タブレットでの学校図書館の蔵書検索、マルチメディアデイジー図書を含めたデジタル図書の導入等、デジタル媒体と紙媒体の両方を生かした読書支援

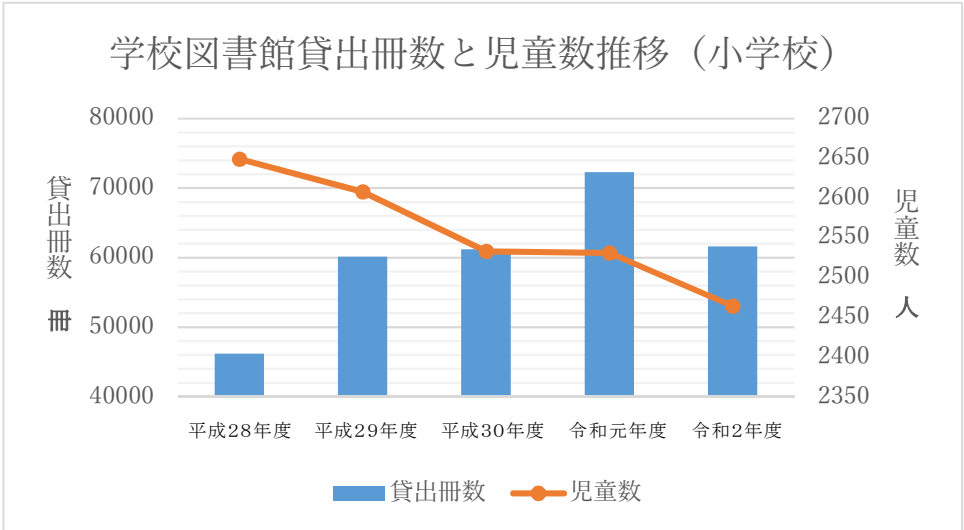
※「マルチメディアデイジー図書」 読むことが困難な方のためのデジタル図書で、専用の機械やパソコンで使用。音声と一緒に文字や画像が表示され、文字の大きさや色を調整できます。

昼休みの学校図書館は いつもたくさん生徒が訪れます（鳴門中学校）

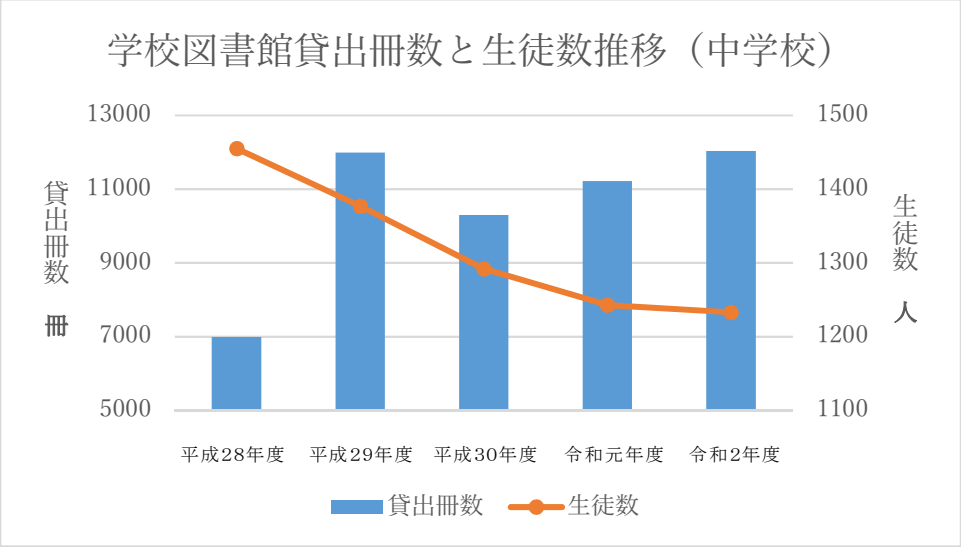
学校図書館サポーターがいる学校図書館（鳴門西小学校）

読書ポイントをためると手作りのしおりがもらえます。

〈参考〉



小学校では「読書の時間」、「学校図書館利用の時間」の確保と、平成28年度のサポーターの全校配置により貸出冊数は順調に増加。令和２年度は、新型コロナウイルス感染予防のための２か月間の休校と、児童数の多い学校が密を避けるための図書室の利用制限により、全体の貸出冊数は減少したものの感染予防をした上で積極的に貸出した学校では増加しました。



中学校では、「朝読書」を実施する学校が増えたことと、子どもの興味・関心のある本やリクエストのあった本を購入することで、学校図書館の利用が大幅に増加。令和２年度は、２か月間の休校にも関わらず全体の貸出冊数が増えており、学校図書館の利用の増加とともに、小説以外の本に触れる機会も増え、幅広い読書活動へと繋がっています。

4　市立図書館・学校・ボランティア団体等の連携・協力の推進

市民総ぐるみの読書運動で子どもの読書活動を推進していくためには、市立図書館や学校、地域住民、鳴門教育大学生によるボランティア団体等その他の関係機関の連携・協力が重要です。関係者が相互に情報交換を行い、子どもたちが読書習慣を築いていくことができる環境が整備されるよう支援していくことが大切です。

〈 現状と課題 〉

① 子どもの読書活動やネットワーク化の推進のために、保育所(園)、認定こども園、児童クラブ、幼稚園、小･中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体等が、一層の情報交換や情報共有を広めることが望まれます。

② 学校図書館関係者、ボランティアのための研修会を毎年実施し、学校図書館の活性化が図られました。

【 重点目標 】

○ 中学生・高校生への読書活動の推進を図ります。

○ 子どもたちの身近にいる大人への啓発活動を図ります。

具体的な取組

○ 中学生・高校生に向けた読書活動の推進を積極的に工夫して取り組みます。

○ 市公式ウェブサイト(図書館情報欄)の「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」などで、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、児童クラブ、小･中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体、鳴門教育大学附属図書館、市立図書館等も含めた市内の情報交換・情報共有化を図り「子どもの読書活動推進ネットワーク」の充実に努めます。

第４章　「子どもの読書活動」推進に向けた社会的気運の醸成

１「子どもの読書活動」の推進に向けて

〈 現状と課題 〉

①　市立図書館では、窓口や広報紙、ウェブサイト等を通じて、図書資料や開催イベント、地域社会で行われる様々な各種サービスに関する情報を提供しています。

②　市役所関係部署、市立図書館などの社会教育施設、学校、ボランティア団体、地域社会等が連携し、相互の協力を図る取組を展開しています。

③　市立図書館では、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、学校、児童クラブと連携を図り、子どもの居場所に読書環境が整えられるよう資料提供に努めています。

④　「読書週間」(10月27日～11月9日)において「子どもの読書活動」への興味や関心を深めていく取組を展開しています。

⑤　家庭では、読書活動への意識に温度差があったり、読書に向かう時間のない家庭が増えたりしています。

⑥　市立図書館児童室の利用、行事等の参加の様子から、以前に比べて子どもと時間を共にする男性の姿が多く見られるようになっています。

⑦　子どもの成長発達における読書の価値や喜びを積極的に伝える必要があります。

⑧　家庭では、短い時間でもいいので、週に何度か、子どもが本に触れる環境や時間をつくることが大切です。また、学校では、15分でもいいので学校図書館に送り出したり、読む時間を確保したりすることで、かなり読書への意識が変わってきます。

⑨　タブレットの利用など、本の電子媒体化が進展していますが、一方で、直接触れてページをめくる紙媒体としての本の価値は大きいです。

具体的な取組

○　「大学のあるまち」としての優位性を生かし、鳴門教育大学と連携を深めながら、読書活動が学力向上や豊かな心の育成に重要であることを、保育所（園）、認定こども園、幼稚園、学校等を通じて保護者を含めた多くの市民への啓発に努めます。

○　家庭や教育施設を対象に、読書活動の必要性を啓発するためのリーフレットや先進的な取組事例を紹介する資料を作成・提供することによって、読書活動を推進します。

○　市公式ウェブサイト(市立図書館欄)の「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」を利用し、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、児童クラブ、小･中学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体、鳴門教育大学附属図書館の情報交換や情報共有を図ります。

○　絵本の読み聞かせを原点としながら、読書を楽しむという習慣や価値観を周知・啓発し、読書活動の推進や子どもへの読み聞かせをする気運を高めていきます。また、児童･生徒が一層読書に親しんだり、読書を習慣化したりするために、小･中学校、高等学校のカリキュラムにおいて、読書の時間の確保や取組の推進を目指し、それらを「鳴門モデル」として広く発信を目指します。

○　子どもの読書活動への一層の理解促進に向け、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、小･中学校、児童クラブ、市立図書館における読書活動への取組を紹介するなど、市民の読書

への関心や理解を深めます。

○　「子ども読書の日」(4月23日)や「読書週間」(10月27日～11月9日)に、その趣旨にふさわしい行事が市内で実施されるよう促します。

2　読書活動を取り巻く社会の変革

読書活動や図書館運営に影響を及ぼす、電子図書の進展やバリアフリー化、新型コロナウイルス感染症等、様々な社会の変革に的確に対応していくことが必要です。

（1）電子図書の進展への対応

〈 現状と課題 〉

① 鳴門市立図書館では、令和４年３月(2022年)現在、電子図書は導入していません。

② 徳島県立図書館では、「とくしま電子図書館」の「電子書籍閲覧サービス」があります。そのサービスでは、学術書・専門書を中心として、大手民間書店の図書館向け電子書籍閲覧サービスを利用して、電子書籍を提供しています。提供する電子書籍は、貸出という形式をとらず、好きな時間に書籍にアクセスして閲覧できます。図書館の開館時間にかかわらず、自宅のパソコンやスマートフォンからでも利用できます。

③ 電子図書のメリットについては、次のとおりです。

非来館型サービスの利点として、図書館に通って借りる手間が省けます。いつでもどこでも本を借りてパソコン等で読むことができ、期限が来たら図書館に出向かなくとも自動的に返却されます。自動音声による読み上げや、字の大きさ調節の機能もあり、視覚に障がいのある人も、使いやすい仕様になっています。新型コロナウイルス感染症による公共図書館の臨時休館や外出自粛、在宅勤務の増加などで、電子図書の利用が注目されました。

④ 一方、電子図書のデメリットについては、次のとおりです。

高価な導入コストがかかることや、現時点では、紙の本に比べると電子書籍数が十分でないことなどがデリットです。また、読書のあり方の観点から、今のところ、利用者のニーズや関心が低いといったことも挙げられます。

⑤ 令和元年12月、文部科学省が打ち出したＧＩＧＡスクール構想により、ＩＣＴ教育として、パソコンや電子黒板、インターネットなどの情報通信技術の効果的な活用が求められています。

具体的な取組

○　とくしま電子図書館の「電子書籍閲覧サービス」の活用について、情報収集するとともに、利用を希望する方へ利用方法について情報提供や周知を進めます。

○　市立図書館における電子図書の導入については、今後、読書活動にもたらす効果や、市民のニーズ、財政的負担等を調査研究します。

（2）読書のバリアフリー化の推進

〈 現状と課題 〉

県では、視覚障がい等により、読書や図書館利用が困難な方の読書環境を整備・充実さ

せて、だれもが等しく文字・活字文化の恵沢を享受できるよう、令和３年７月に「徳島県読書バリアフリー推進計画」を策定。この計画のもと、アクセシブル（利用しやすい）な書籍等の充実や利用のための支援など、視覚障がい等の読書バリアフリー環境を実現する施策等を推進しています。

市立図書館では、図書館利用が困難な様々な障がいのある方のために、次のようなサービスを行っています。

① 館内で利用できる「車椅子」が玄関にあります。図書館内では「老眼鏡」、「ルーペ」をカウンターで貸出しています。

② カウンターで「筆談」による対応ができます。

③ 図書館内で「リーディングトラッカー」を貸出しています。本のページに当てることで、読みたい「行」だけに視点を集中することができます。

④ 所定の位置に印刷物を置くと、自動的に読み上げる機器「よむべえ」があります。

⑤ 印刷物を拡大してモニターに映し出す「拡大読書器」があります。コントラストの調整、カラーと白黒調整、白黒反転ができます。

⑥ 視覚障がい者等が利用しやすい本や図書館資料として、大活字本、点字絵本、点訳絵本、さわる絵本、朗読ＣＤのほか、マルチメディアデイジー図書があります。

具体的な取組

○ 障がいの特性や程度に応じた、様々な分野のアクセシブルな（利用しやすい）書籍等の充実やサービスの周知に努めるとともに、電子図書の導入等について調査研究します。

（３）新型コロナウイルス感染症による影響

〈 現状と課題 〉

① 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和３年(2021年)においては、市立図書館では４月29日から５月11日まで臨時休館するとともに、館内のイベントについても、状況に応じて不開催としました。また、その前後の期間も、感染拡大防止のための利用制限を実施しました。

② 感染拡大の状況に応じて、次のような拡大防止策を講じています。

(1) 利用制限として、図書館の１階閲覧室は、書籍の貸出・返却のみ可能で、滞在はおおむね１時間以内としたり、２階閲覧室及びＡＶコーナーを利用不可としたりします。また、来館者には、マスクの着用や手指の消毒、検温のほか、連絡先記入用紙への氏名や体温等の記入に協力してもらいます。

(2) 書籍を消毒するために購入した書籍消毒機により、返却された本を消毒し、感染拡大の防止に努めます。

具体的な取組

○ 新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、適切に拡大防止対策を講じます。

○ 非来館型サービスとしての電子図書の導入等について調査研究します。

第５章　計画の推進体制の整備

子どもの読書活動を推進するためには、子どもが本を読むことの楽しさや喜びに出会う機会を広げるとともに、市民の読書活動への理解を深めることが大切です。そのため、家庭、保育所(園)、認定こども園、幼稚園、児童クラブ、小･中学校、高等学校、学校図書館サポーター、ボランティア団体、鳴門教育大学附属図書館、市立図書館等が相互連携・協力し、情報交換や情報の共有化を図ることが重要になってきます。そうした連携を図るために、認定NPO法人「ふくろうの森」や学校、行政機関等からの委員で構成する「鳴門市子どもの読書活動推進協議会」を活用し、絵本の読み聞かせを原点とした読書に親しむ「鳴門モデル」を通して、すべての子どもが主体的に 読書活動に取り組めることを目指します。

また、前述の児童福祉施設や学校、各種団体、地域の人材、市立図書館等が連携・協力するための「子どもの読書活動推進ネットワーク」の円滑な推進を図るため、市公式ウェブサイト（図書館情報欄）の「鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧」を活用し、様々な活動事例や取組に関する情報交換・情報の共有化を図り、子どもの読書活動の推進体制を強化します。

具体的な取組

○　「鳴門モデル」を通して、すべての子どもが主体的に 読書活動に取り組むことができるような体制づくりを目指し、読書の意義や必要性について周知広報に努めるとともに、本市関係課や市立図書館、関係機関、ボランティア団体等が連携しながら、読書に関するイベントの実施や情報提供など、市民参加型の事業を展開します。

○　本計画における取組の進捗状況や成果について、必要に応じて調査を行います。

1 「鳴門市子どもの読書活動に関するアンケート調査」の結果

１．調査の概要

（１）調査目的

読書活動に関するアンケート調査については「鳴門市子どもの読書活動推進計画」の「第１次推進計画」と「第３次推進計画」の策定時に実施しているが、今回の「第４次推進計画」策定時においても、本市の子どもの読書活動の状況を把握するとともに、これまでの成果や課題を検証するためにアンケート調査を実施した。

（２）調査方法

①対象　鳴門市内の小学２年生、小学５年生、中学２年生、高校２年生
　　鳴門市内の保護者（幼稚園年少児、小学５年生）

②調査方法　各学校、幼稚園を通してアンケート調査を依頼

③調査期間　令和３年１月25日～２月５日（2021年）

（３）回収結果

①回収数

小学２年生（434人）、小学５年生（389人）
中学２年生（353人）、高校２年生（431人）
幼稚園年少児の保護者（239人）、小学５年生の保護者（343人）

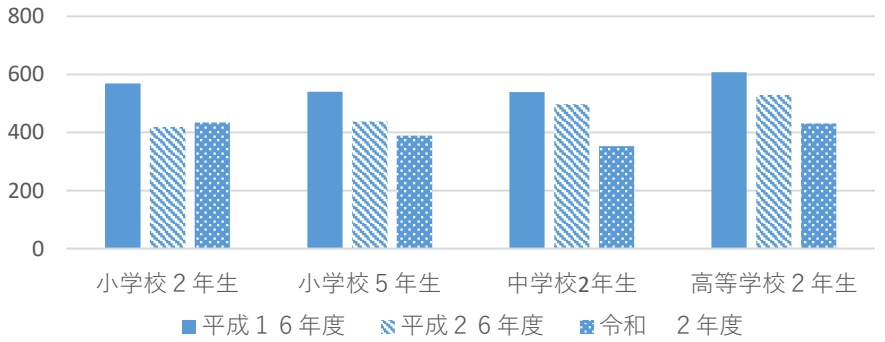
②回収率

小学２年生（99.3%）、小学５年生（97.5%）
中学２年生（91.7%）、高校２年生（88.9%）
幼稚園年少児の保護者（90.5%）、小学５年生の保護者（85.8%）

２．小学２年生、小学５年生、中学２年生、高校２年生の結果

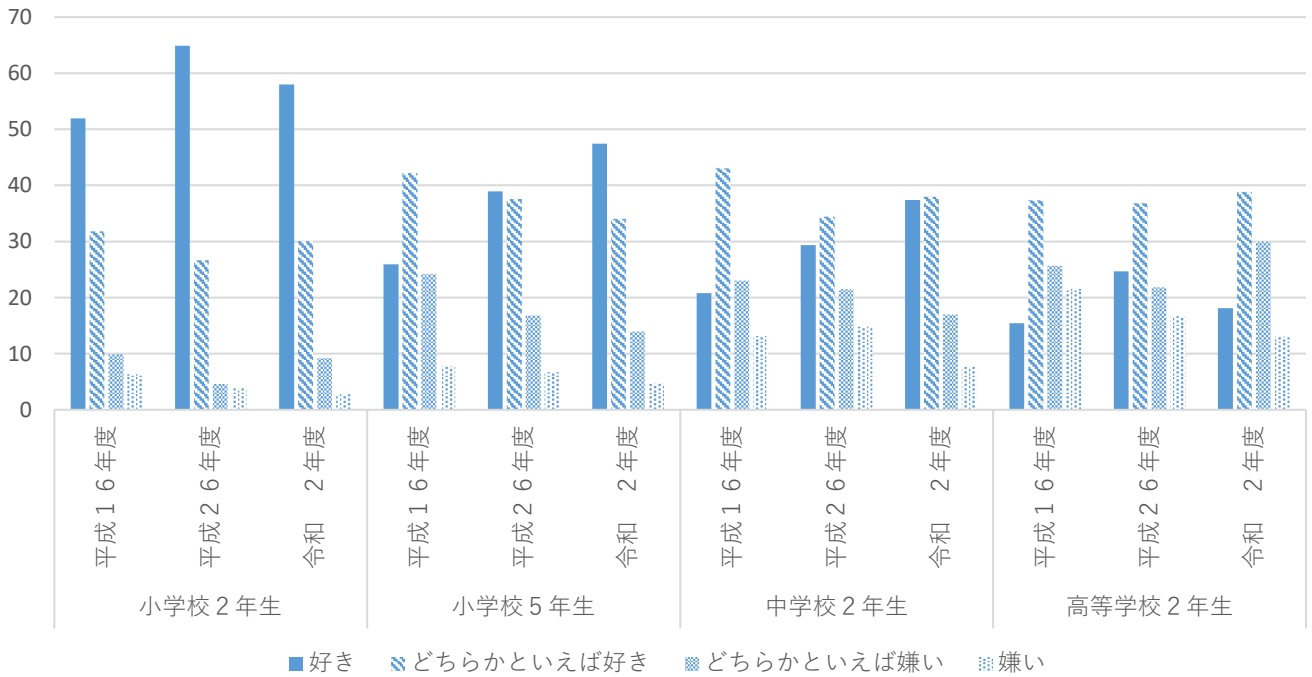
問１．学年について答えてください。

		小学2年生	小学5年生	中学2年生	高校2年生	計
人数	平成16年度	569	540	539	608	2,256
	平成26年度	419	438	497	529	1,883
	令和　2年度	434	389	353	431	1,607
割合	平成16年度	25.2	23.9	23.9	27.0	100
	平成26年度	22.3	23.3	26.4	28.1	100
	令和　2年度	27.0	24.2	22.0	26.8	100



問２．本を読むことは好きですか。

			好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	計
人数	小学2年生	平成16年度	294	180	56	36	566
		平成26年度	270	111	19	16	416
		令和　2年度	251	130	40	12	433
	小学5年生	平成16年度	131	213	122	39	505
		平成26年度	169	163	73	29	434
		令和　2年度	184	132	54	18	388
	中学2年生	平成16年度	112	232	124	71	539
		平成26年度	145	170	106	73	494
		令和　2年度	132	134	60	27	353
	高校2年生	平成16年度	91	220	151	127	589
		平成26年度	130	194	115	88	527
		令和　2年度	78	167	129	56	430
割合	小学2年生	平成16年度	51.9	31.8	9.9	6.4	100
		平成26年度	64.9	26.7	4.6	3.9	100
		令和　2年度	58.0	30.0	9.2	2.8	100
	小学5年生	平成16年度	25.9	42.2	24.2	7.7	100
		平成26年度	38.9	37.6	16.8	6.7	100
		令和　2年度	47.4	34.0	13.9	4.6	100
	中学2年生	平成16年度	20.8	43.0	23.0	13.2	100
		平成26年度	29.4	34.4	21.5	14.8	100
		令和　2年度	37.4	38.0	17.0	7.7	100
	高校2年生	平成16年度	15.5	37.4	25.6	21.6	100
		平成26年度	24.7	36.8	21.8	16.7	100
		令和　2年度	18.1	38.8	30.0	13.0	100

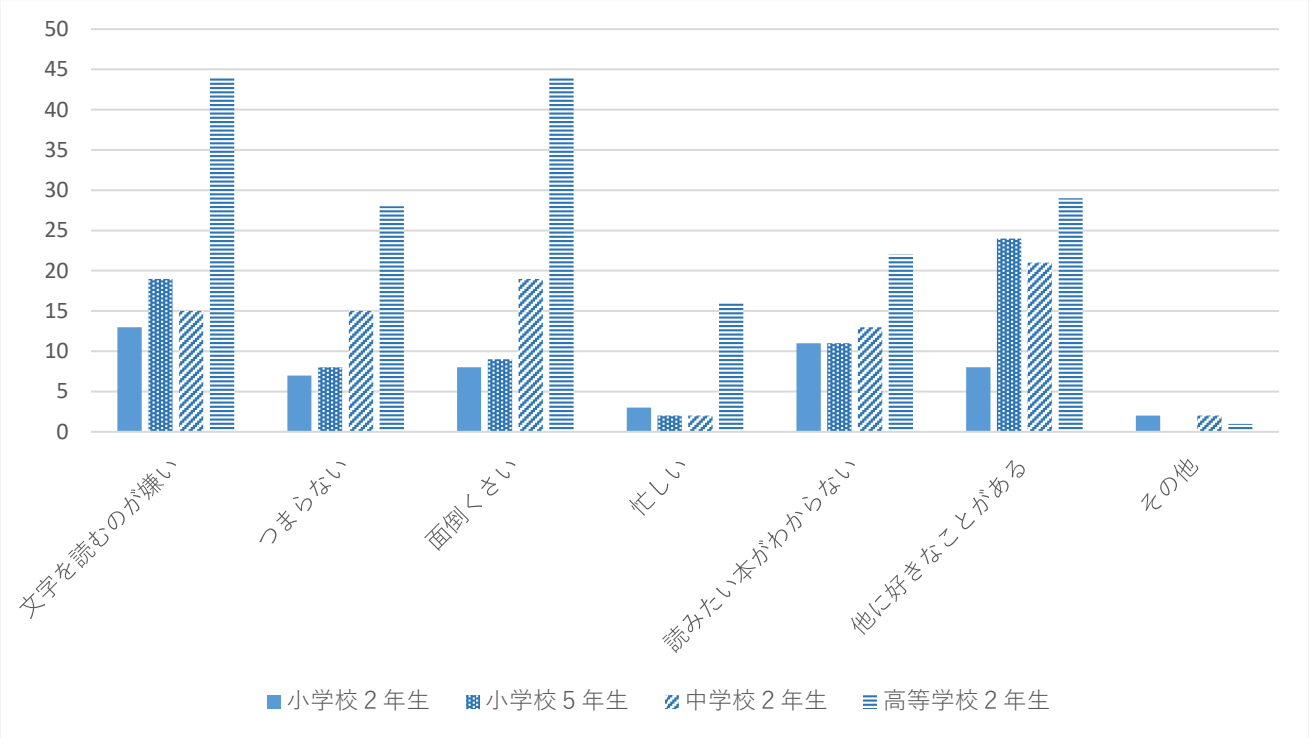


問３．問２で「どちらかといえば嫌い」または「嫌い」を選んだ理由

令和２年度のみ調査

		文字を読むのが嫌い	つまらない	面倒くさい	忙しい	読みたい本がわからない	他に好きなことがある	その他	計
人数	小学2年生	13	7	8	3	11	8	2	52
	小学5年生	19	8	9	2	11	24	0	73
	中学2年生	15	15	19	2	13	21	2	87
	高校2年生	44	28	44	16	22	29	1	184
割合	小学2年生	25.0	13.5	15.4	5.8	21.2	15.4	3.8	100
	小学5年生	26.0	11.0	12.3	2.7	15.1	32.9	0.0	100
	中学2年生	17.2	17.2	21.8	2.3	14.9	24.1	2.3	100
	高校2年生	23.9	15.2	23.9	8.7	12.0	15.8	0.5	100

※「その他」　小学２年生　目が疲れる　１人

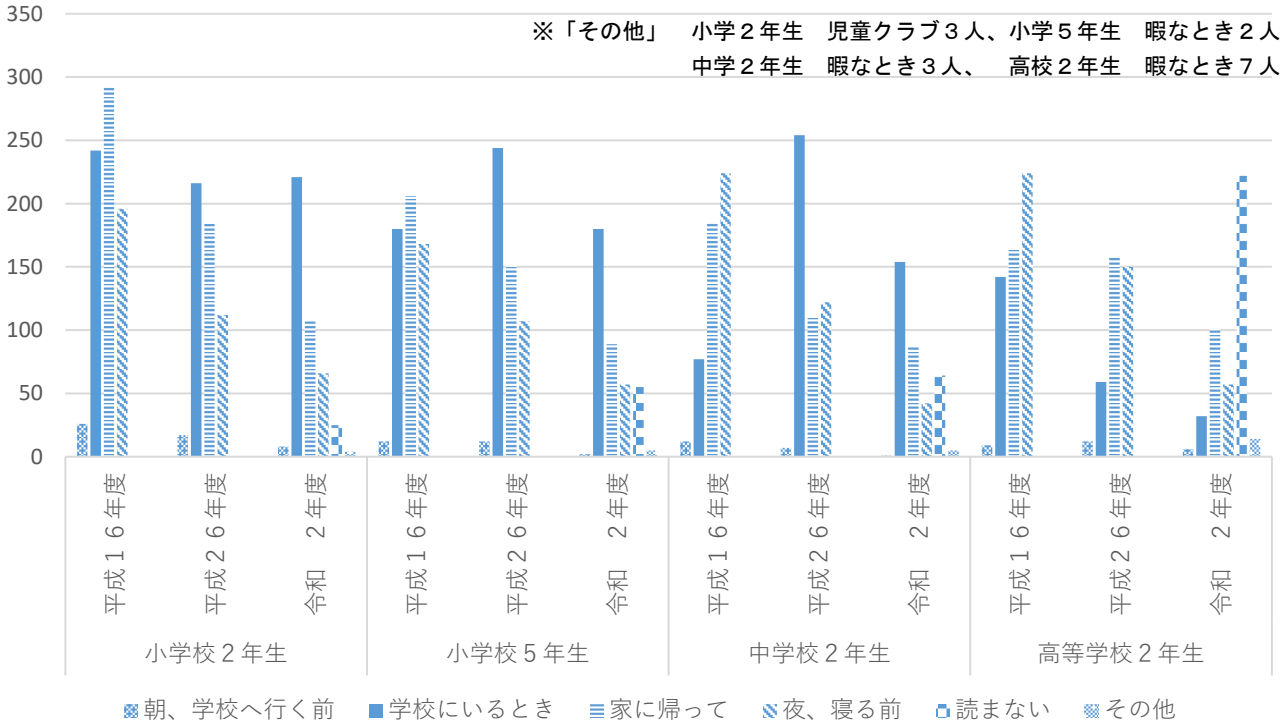


問４．一日の中で、いつ本を読むことが多いですか。

平成16年度、平成26年度は複数回答

			朝、学校へ行く前	学校にいるとき	家に帰って	夜、寝る前	読まない	その他	計
人数	小学2年生	平成16年度	26	242	292	196	0	0	756
		平成26年度	17	216	184	112	0	0	529
		令和 2年度	8	221	107	66	25	4	431
	小学5年生	平成16年度	12	180	206	168	0	0	566
		平成26年度	12	244	151	107	0	0	514
		令和 2年度	2	180	89	57	55	5	388
	中学2年生	平成16年度	12	77	185	224	0	0	498
		平成26年度	7	254	110	122	0	0	493
		令和 2年度	1	154	87	42	64	5	353
	高校2年生	平成16年度	9	142	164	224	0	0	539
		平成26年度	12	59	158	150	0	0	379
		令和 2年度	6	32	101	57	222	14	432
割合	小学2年生	平成16年度	3.4	32.0	38.6	25.9	0.0	0.0	100
		平成26年度	3.2	40.8	34.8	21.2	0.0	0.0	100
		令和 2年度	1.9	51.3	24.8	15.3	5.8	0.9	100
	小学5年生	平成16年度	2.1	31.8	36.4	29.7	0.0	0.0	100
		平成26年度	2.3	47.5	29.4	20.8	0.0	0.0	100
		令和 2年度	0.5	46.4	22.9	14.7	14.2	1.3	100
	中学2年生	平成16年度	2.4	15.5	37.2	45.0	0.0	0.0	100
		平成26年度	1.4	51.5	22.3	24.8	0.0	0.0	100
		令和 2年度	0.3	43.6	24.7	11.9	18.1	1.4	100
	高校2年生	平成16年度	1.7	26.4	30.4	41.6	0.0	0.0	100
		平成26年度	3.2	15.6	41.7	39.6	0.0	0.0	100
		令和 2年度	1.4	7.4	23.4	13.2	51.4	3.2	100

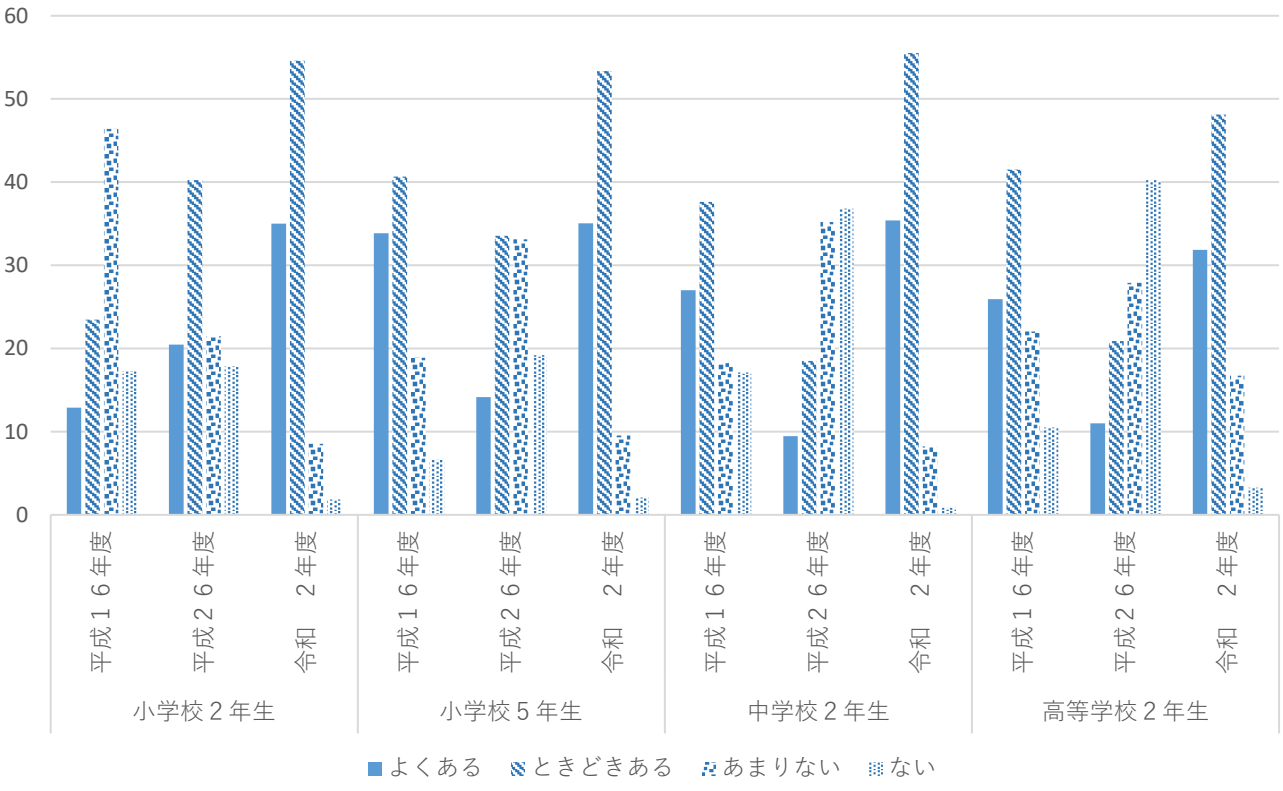
※「その他」　小学２年生　児童クラブ３人、小学５年生　暇なとき２人
中学２年生　暇なとき３人、　高校２年生　暇なとき７人



問５．今までに読み聞かせをしてもらったことがありますか。

平成16年度、平成26年度は、してもらった相手は家族に限定

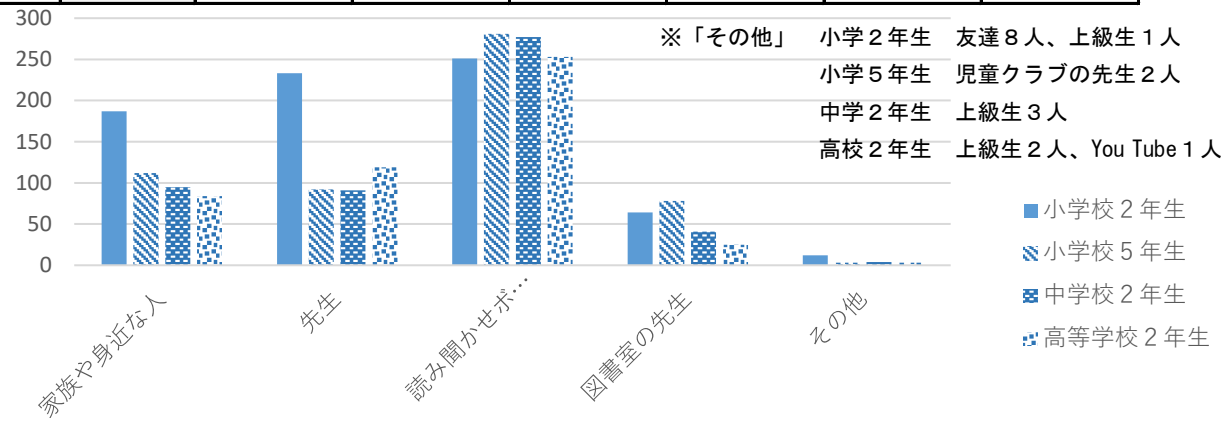
			よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
人数	小学2年生	平成16年度	73	133	263	98	567
		平成26年度	85	167	89	74	415
		令和　2年度	152	237	37	8	434
	小学5年生	平成16年度	174	209	97	34	514
		平成26年度	62	147	145	84	438
		令和　2年度	136	207	37	8	388
	中学2年生	平成16年度	145	202	98	92	537
		平成26年度	47	92	175	183	497
		令和　2年度	125	196	29	3	353
	高校2年生	平成16年度	153	245	130	62	590
		平成26年度	58	110	147	212	527
		令和　2年度	137	207	72	14	430
割合	小学2年生	平成16年度	12.9	23.5	46.4	17.3	100
		平成26年度	20.5	40.2	21.4	17.8	100
		令和　2年度	35.0	54.6	8.5	1.8	100
	小学5年生	平成16年度	33.9	40.7	18.9	6.6	100
		平成26年度	14.2	33.6	33.1	19.2	100
		令和　2年度	35.1	53.4	9.5	2.1	100
	中学2年生	平成16年度	27.0	37.6	18.2	17.1	100
		平成26年度	9.5	18.5	35.2	36.8	100
		令和　2年度	35.4	55.5	8.2	0.8	100
	高校2年生	平成16年度	25.9	41.5	22.0	10.5	100
		平成26年度	11.0	20.9	27.9	40.2	100
		令和　2年度	31.9	48.1	16.7	3.3	100



問６．読みきかせをしてくれたのは誰ですか。

複数回答

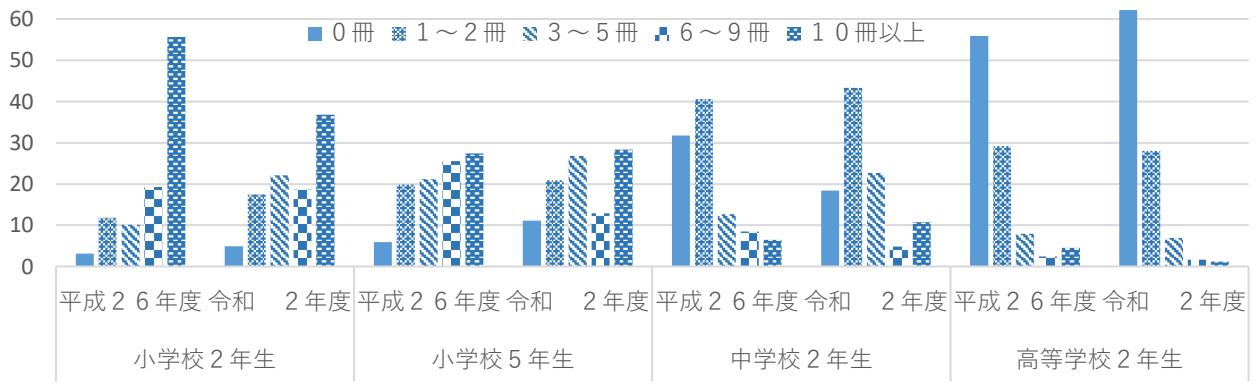
		家族や身近な人	先生	読み聞かせボランティア	図書室の先生	その他	計
人数	小学2年生	187	233	251	64	12	747
	小学5年生	112	92	281	78	3	566
	中学2年生	95	91	277	41	4	508
	高校2年生	84	119	253	25	3	484
割合	小学2年生	25.0	31.2	33.6	8.6	1.6	100
	小学5年生	19.8	16.3	49.6	13.8	0.5	100
	中学2年生	18.7	17.9	54.5	8.1	0.8	100
	高校2年生	17.4	24.6	52.3	5.2	0.6	100



問７．前の月１カ月に本を何冊くらい読みましたか。

平成16年度未調査

			０冊	１～２冊	３～５冊	６～９冊	10冊以上	計
人数	小学2年生	平成26年度	13	49	42	80	231	415
		令和　2年度	21	75	95	80	158	429
	小学5年生	平成26年度	26	87	93	112	120	438
		令和　2年度	43	81	104	50	110	388
	中学2年生	平成26年度	158	202	63	42	32	497
		令和　2年度	65	153	80	17	38	353
	高校2年生	平成26年度	295	154	42	13	24	528
		令和　2年度	268	121	30	7	5	431
割合	小学2年生	平成26年度	3.1	11.8	10.1	19.3	55.7	100
		令和　2年度	4.9	17.5	22.1	18.7	36.8	100
	小学5年生	平成26年度	5.9	19.9	21.2	25.6	27.4	100
		令和　2年度	11.1	20.9	26.8	12.9	28.4	100
	中学2年生	平成26年度	31.8	40.6	12.7	8.5	6.4	100
		令和　2年度	18.4	43.3	22.7	4.8	10.8	100
	高校2年生	平成26年度	55.9	29.2	8.0	2.5	4.6	100
		令和　2年度	62.2	28.1	7.0	1.6	1.2	100

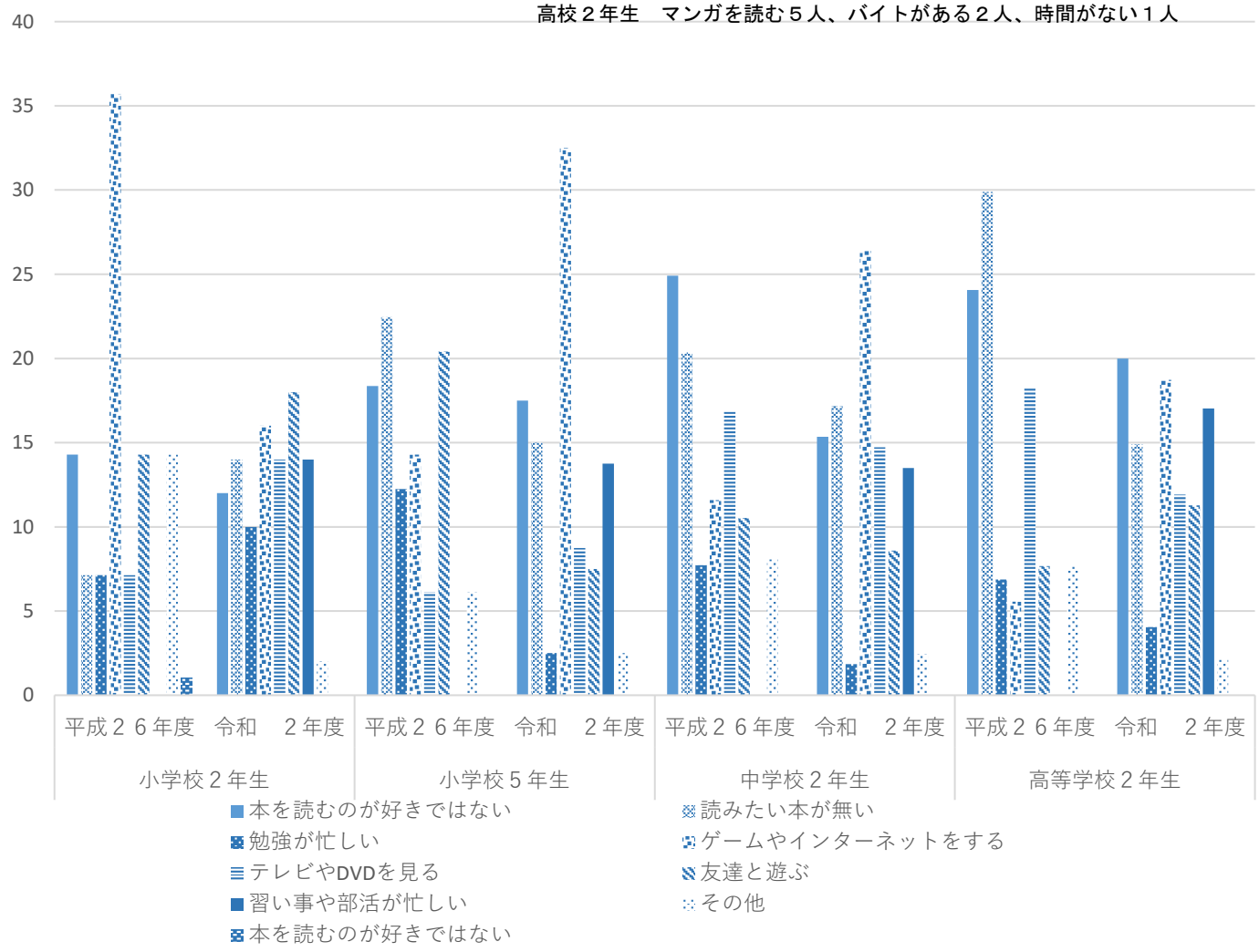


問８．読まなかったのはなぜですか。

平成16年度未調査

			本を読むのが好きではない	読みたい本が無い	勉強が忙しい	ゲームやインターネットをする	テレビやDVDを見る	友達と遊ぶ	習い事や部活が忙しい	その他	計
人数	小学2年生	平成26年度	2	1	1	5	1	2	0	2	14
		令和 2年度	6	7	5	8	7	9	7	1	50
	小学5年生	平成26年度	9	11	6	7	3	10	0	3	49
		令和 2年度	14	12	2	26	7	6	11	2	80
	中学2年生	平成26年度	71	58	22	33	48	30	0	23	285
		令和 2年度	25	28	3	43	24	14	22	4	163
	高校2年生	平成26年度	91	113	26	21	69	29	0	29	378
		令和 2年度	94	70	19	88	56	53	80	10	470
割合	小学2年生	平成26年度	14.3	7.1	7.1	35.7	7.1	14.3	0.0	14.3	100
		令和 2年度	12.0	14.0	10.0	16.0	14.0	18.0	14.0	2.0	100
	小学5年生	平成26年度	18.4	22.5	12.2	14.3	6.1	20.4	0.0	6.1	100
		令和 2年度	17.5	15.0	2.5	32.5	8.8	7.5	13.8	2.5	100
	中学2年生	平成26年度	24.9	20.4	7.7	11.6	16.8	10.5	0.0	8.1	100
		令和 2年度	15.3	17.2	1.8	26.4	14.7	8.6	13.5	2.5	100
	高校2年生	平成26年度	24.1	29.9	6.9	5.6	18.3	7.7	0.0	7.7	100
		令和 2年度	20.0	14.9	4.0	18.7	11.9	11.3	17.0	2.1	100

※「その他」　小学５年生　マンガを読む１人
中学２年生　マンガを読む３人、面倒くさい１人
高校２年生　マンガを読む５人、バイトがある２人、時間がない１人

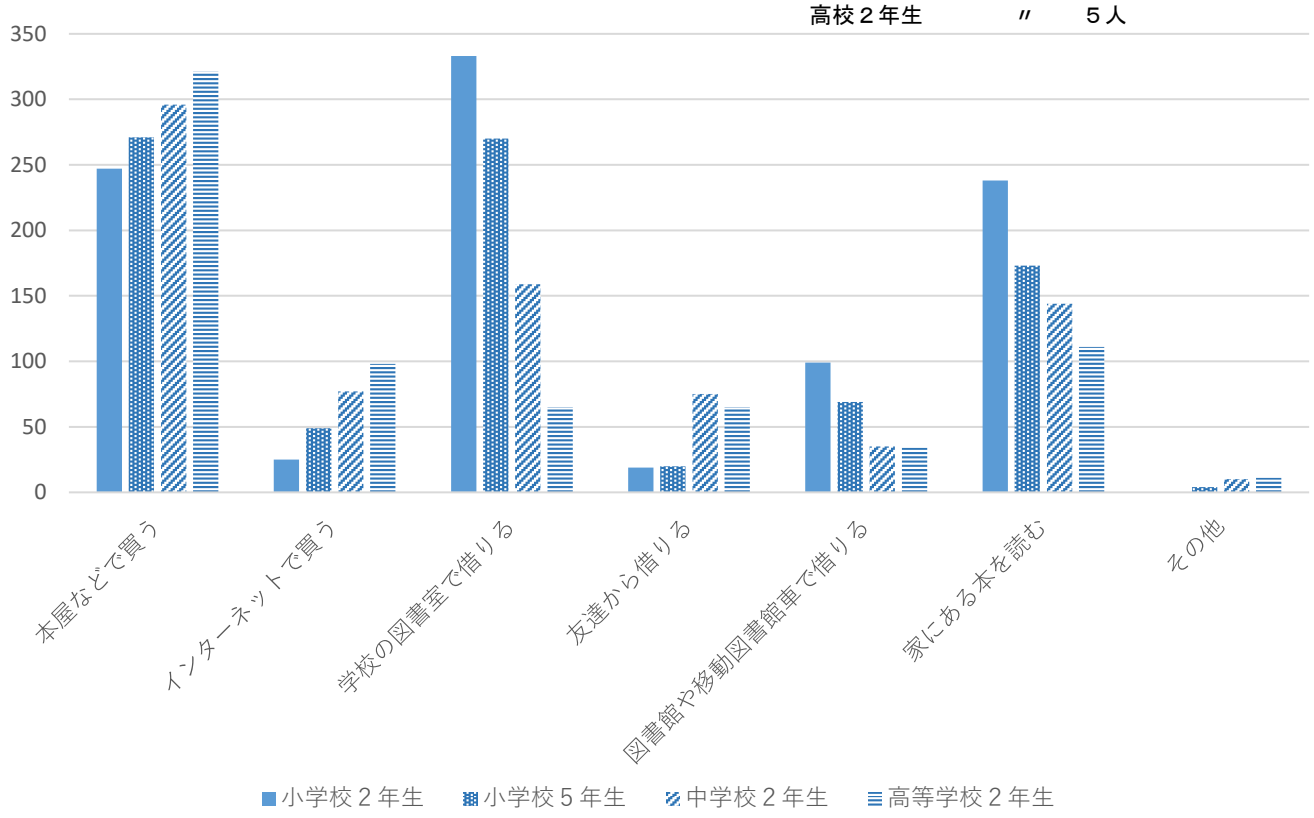


問９．読みたい本をどのようにして手に入れますか。

令和２年度のみ調査、複数回答

		本屋などで買う	インターネットで買う	学校の図書室で借りる	友達から借りる	図書館や移動図書館車で借りる	家にある本を読む	その他	計
人数	小学2年生	247	25	333	19	99	238	0	961
	小学5年生	271	49	270	20	69	173	4	856
	中学2年生	296	77	159	75	35	144	10	796
	高校2年生	321	98	65	65	34	111	11	705
割合	小学2年生	25.7	2.6	34.7	2.0	10.3	24.8	0.0	100
	小学5年生	31.7	5.7	31.5	2.3	8.1	20.2	0.5	100
	中学2年生	37.2	9.7	20.0	9.4	4.4	18.1	1.3	100
	高校2年生	45.5	13.9	9.2	9.2	4.8	15.7	1.6	100

※「その他」　小学５年生　手に入れない１人
中学２年生　〃　４人
高校２年生　〃　５人

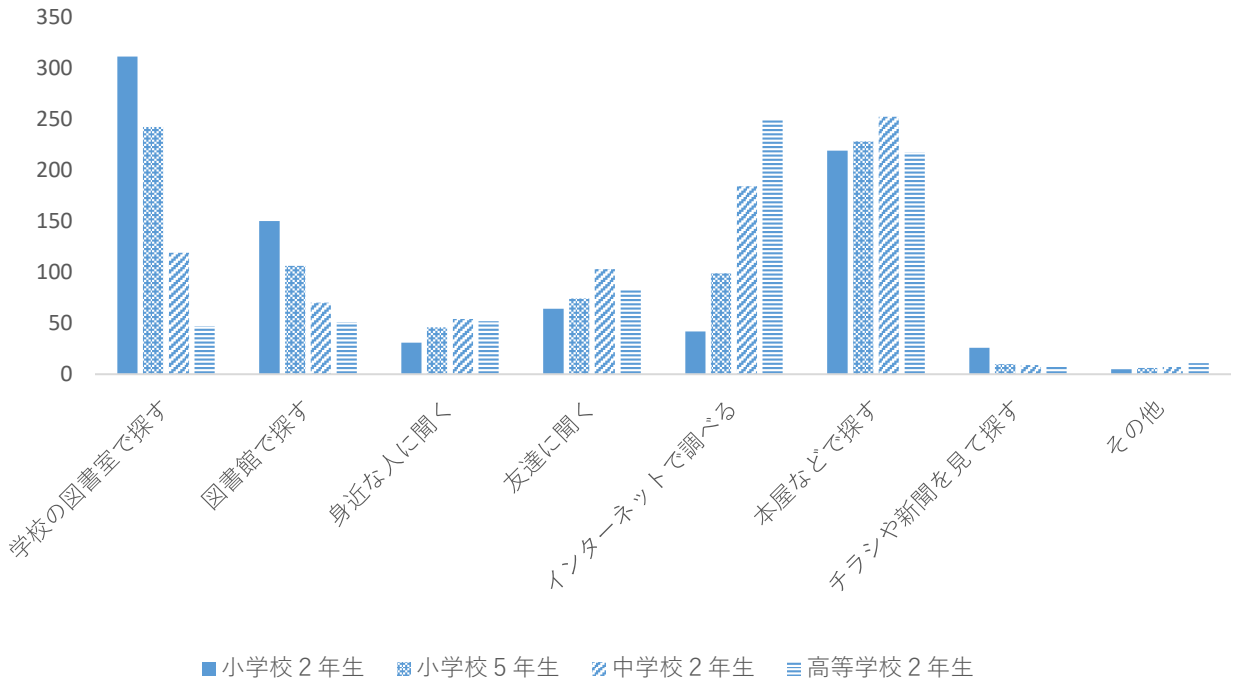


問10. 読みたい本をどのようにして探していますか。

令和２年度のみ調査、複数回答

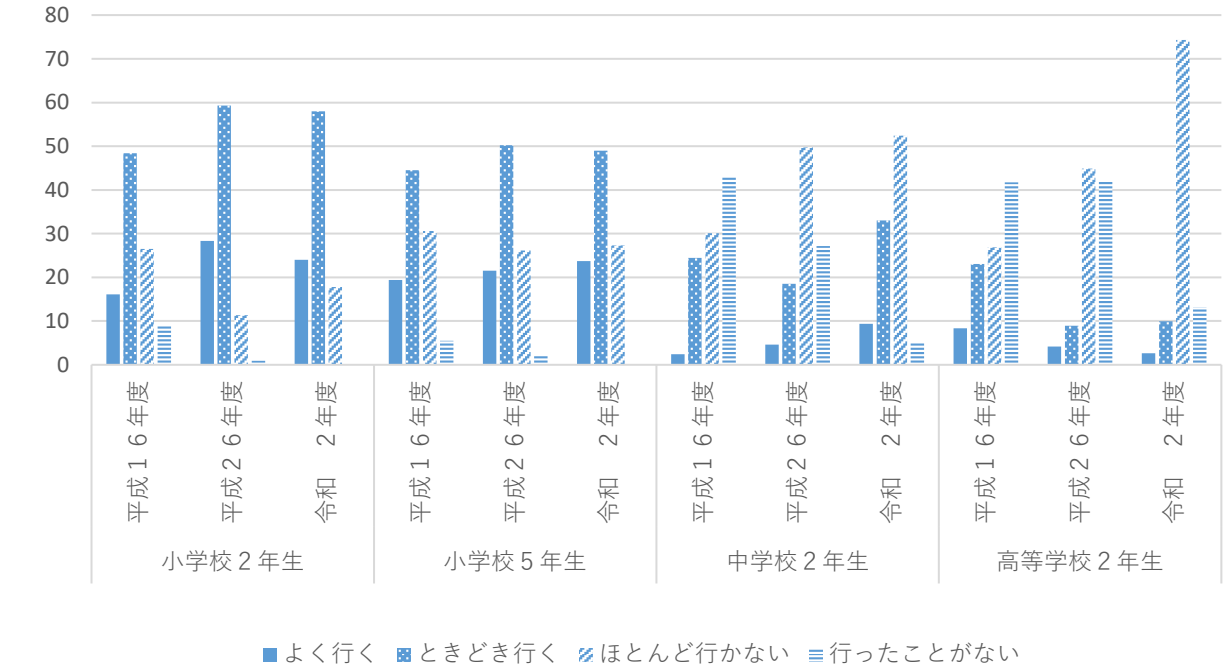
		学校の図書室で探す	図書館で探す	身近な人に聞く	友達に聞く	インターネットで調べる	本屋などで探す	チラシや新聞を見て探す	その他	計
人数	小学2年生	311	150	31	64	42	219	26	5	848
	小学5年生	242	106	46	74	99	228	10	6	811
	中学2年生	119	70	54	103	184	252	9	7	798
	高校2年生	47	51	52	83	249	217	9	11	719
割合	小学2年生	36.7	17.7	3.7	7.6	5.0	25.8	3.1	0.6	100
	小学5年生	29.8	13.1	5.7	9.1	12.2	28.1	1.2	0.7	100
	中学2年生	14.9	8.8	6.8	12.9	23.1	31.6	1.1	0.9	100
	高校2年生	6.5	7.1	7.2	11.5	34.6	30.2	1.3	1.5	100

※「その他」　小学２年生　家で探す２人
小学５年生　探さない１人
中学２年生　〃　７人
高校２年生　〃　６人



問11．学校図書館へ行くことがありますか。

			よく行く	ときどき行く	ほとんど行かない	行ったことがない	計
人数	小学2年生	平成16年度	91	274	150	51	566
		平成26年度	117	245	47	4	413
		令和 2年度	104	251	77	1	433
	小学5年生	平成16年度	99	227	156	28	510
		平成26年度	94	219	114	9	436
		令和 2年度	92	190	106	0	388
	中学2年生	平成16年度	13	132	162	232	539
		平成26年度	23	92	247	135	497
		令和 2年度	33	116	184	18	351
	高校2年生	平成16年度	50	138	161	250	599
		平成26年度	22	47	236	221	526
		令和 2年度	11	41	307	54	413
割合	小学2年生	平成16年度	16.1	48.4	26.5	9.0	100
		平成26年度	28.3	59.3	11.4	1.0	100
		令和 2年度	24.0	58.0	17.8	0.2	100
	小学5年生	平成16年度	19.4	44.5	30.6	5.5	100
		平成26年度	21.6	50.2	26.1	2.1	100
		令和 2年度	23.7	49.0	27.3	0.0	100
	中学2年生	平成16年度	2.4	24.5	30.1	43.0	100
		平成26年度	4.6	18.5	49.7	27.2	100
		令和 2年度	9.4	33.1	52.4	5.1	100
	高校2年生	平成16年度	8.3	23.0	26.9	41.7	100
		平成26年度	4.2	8.9	44.9	42.0	100
		令和 2年度	2.7	9.9	74.3	13.1	100

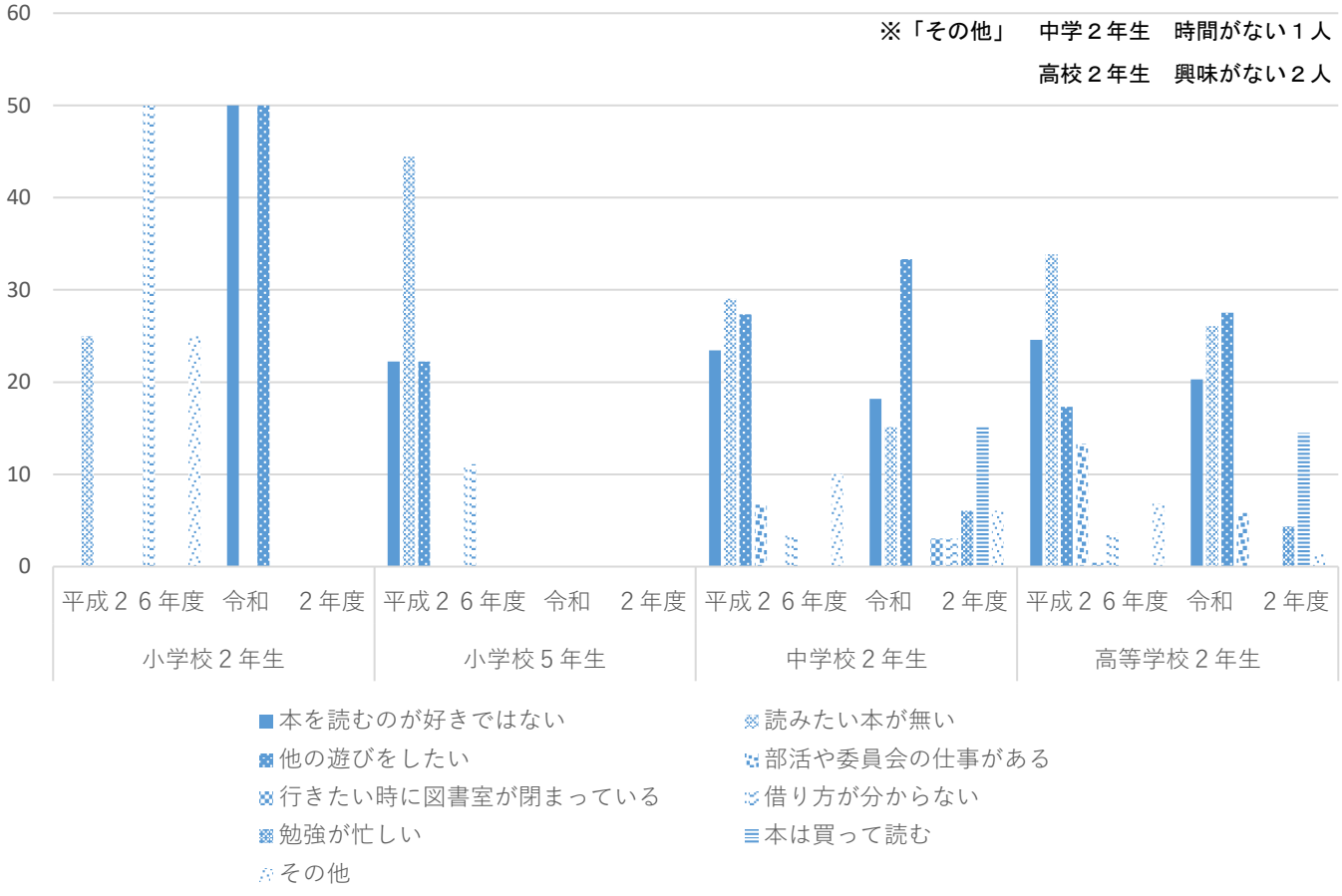


問12．行かないのは、なぜですか。

平成16年度未調査　複数回答

			本を読むのが好きではない	読みたい本が無い	他の遊びをしたい	部活や委員会の仕事がある	行きたい時図書室が閉まっている	借り方が分からない	勉強が忙しい	本は買って読む	その他	計
人数	小学２年生	平成26年度	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4
		令和２年度	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	小学５年生	平成26年度	2	4	2	0	0	1	0	0	0	9
		令和２年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学２年生	平成26年度	42	52	49	12	0	6	0	0	18	179
		令和２年度	6	5	11	0	1	1	2	5	2	33
	高校２年生	平成26年度	61	84	43	33	1	9	0	0	17	248
		令和２年度	14	18	19	4	0	0	3	10	1	69
割合	小学２年生	平成26年度	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	100
		令和２年度	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
	小学５年生	平成26年度	22.2	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	100
		令和２年度	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	中学２年生	平成26年度	23.5	29.1	27.4	6.7	0.0	3.4	0.0	0.0	10.1	100
		令和２年度	18.2	15.2	33.3	0.0	3.0	3.0	6.1	15.2	6.1	100
	高校２年生	平成26年度	24.6	33.9	17.3	13.3	0.4	3.6	0.0	0.0	6.9	100
		令和２年度	20.3	26.1	27.5	5.8	0.0	0.0	4.4	14.5	1.5	100

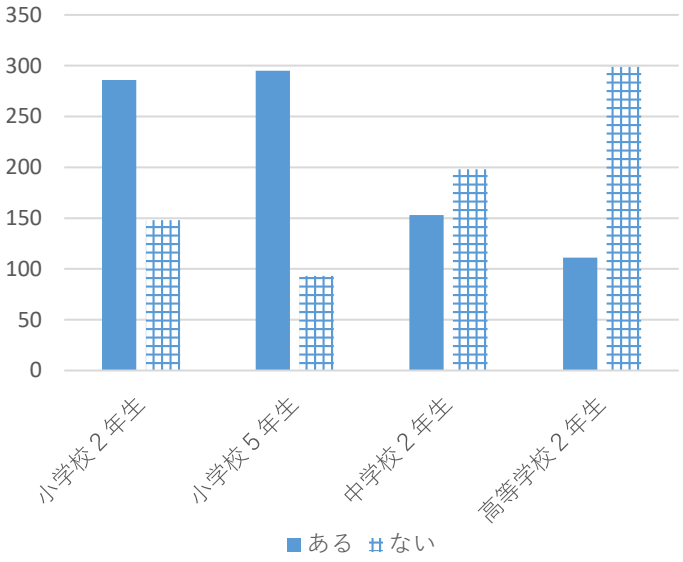
※「その他」　中学２年生　時間がない１人
高校２年生　興味がない２人



問13. 図書室の先生がいてくれて、良かったことはありますか。

令和2年度のみ調査

		ある	ない	計
人数	小学2年生	286	148	434
	小学5年生	295	93	388
	中学2年生	153	198	351
	高校2年生	111	299	410
割合	小学2年生	65.9	34.1	100
	小学5年生	76.0	24.0	100
	中学2年生	43.6	56.4	100
	高校2年生	27.1	72.9	100



問14. 良かった理由

小学２年生

本を探してくれる 152人、本を貸してくれる 30人、おすすめの本を教えてくれる 25人
優しい 26人、話ができる 14人、本を直してくれる 12人、読み聞かせをしてくれる ６人
図書室の環境が良くなる ３人、イベントをしてくれる ２人、遊んでくれる ２人

小学５年生

本を探してくれる 167人、おすすめの本を教えてくれる 48人、話ができる 22人
本を貸してくれる 20人、図書室の環境が良くなる ６人、優しい ４人
読み聞かせをしてくれる ４人、イベントをしてくれる ４人、本を直してくれる １人

中学２年生

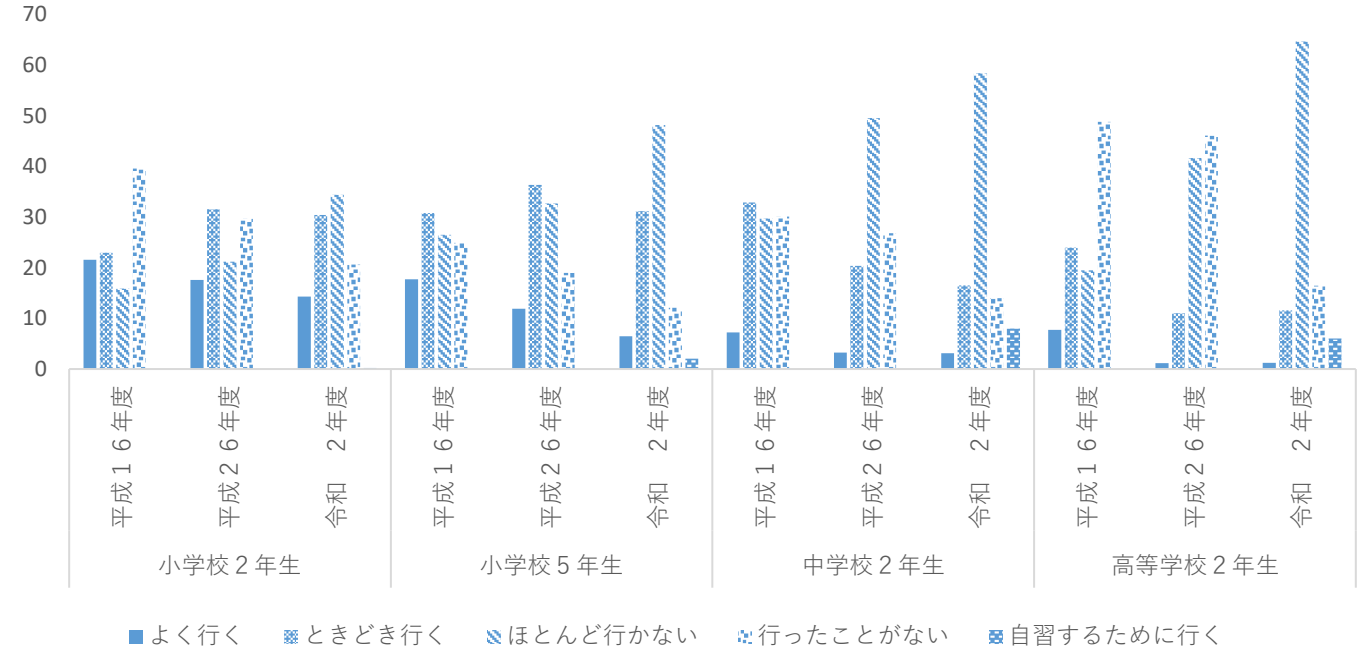
本を探してくれる 89人、おすすめの本を教えてくれる 37人、図書室の環境が良くなる ３人
優しい、イベントをしてくれる、話ができる 各１人

高校２年生

本を探してくれる 69人、おすすめの本を教えてくれる 19人、利用がスムーズ ６人
優しい ４人、いろいろな相談に乗ってくれる ４人、図書室の環境が良くなる １人

問15．図書館や移動図書館車へ行くことがありますか。

			よく行く	ときどき	ほとんど行かない	行ったことがない	自習するため行く	計
人数	小学2年生	平成16年度	122	130	90	224	0	566
		平成26年度	73	131	88	123	0	415
		令和 2年度	61	130	147	88	1	427
	小学5年生	平成16年度	91	158	136	128	0	513
		平成26年度	52	159	143	83	0	437
		令和 2年度	25	121	187	47	8	388
	中学2年生	平成16年度	39	177	160	162	0	538
		平成26年度	16	101	246	133	0	496
		令和 2年度	11	58	205	49	28	351
	高校2年生	平成16年度	45	140	114	285	0	584
		平成26年度	6	57	215	238	0	516
		令和 2年度	5	48	267	68	25	413
割合	小学2年生	平成16年度	21.6	23.0	15.9	39.6	0.0	100
		平成26年度	17.6	31.6	21.2	29.6	0.0	100
		令和 2年度	14.3	30.4	34.4	20.6	0.2	100
	小学5年生	平成16年度	17.7	30.8	26.5	25.0	0.0	100
		平成26年度	11.9	36.4	32.7	19.0	0.0	100
		令和 2年度	6.4	31.2	48.2	12.1	2.1	100
	中学2年生	平成16年度	7.2	32.9	29.7	30.1	0.0	100
		平成26年度	3.2	20.4	49.6	26.8	0.0	100
		令和 2年度	3.1	16.5	58.4	14.0	8.0	100
	高校2年生	平成16年度	7.7	24.0	19.5	48.8	0.0	100
		平成26年度	1.2	11.0	41.7	46.1	0.0	100
		令和 2年度	1.2	11.6	64.6	16.5	6.1	100



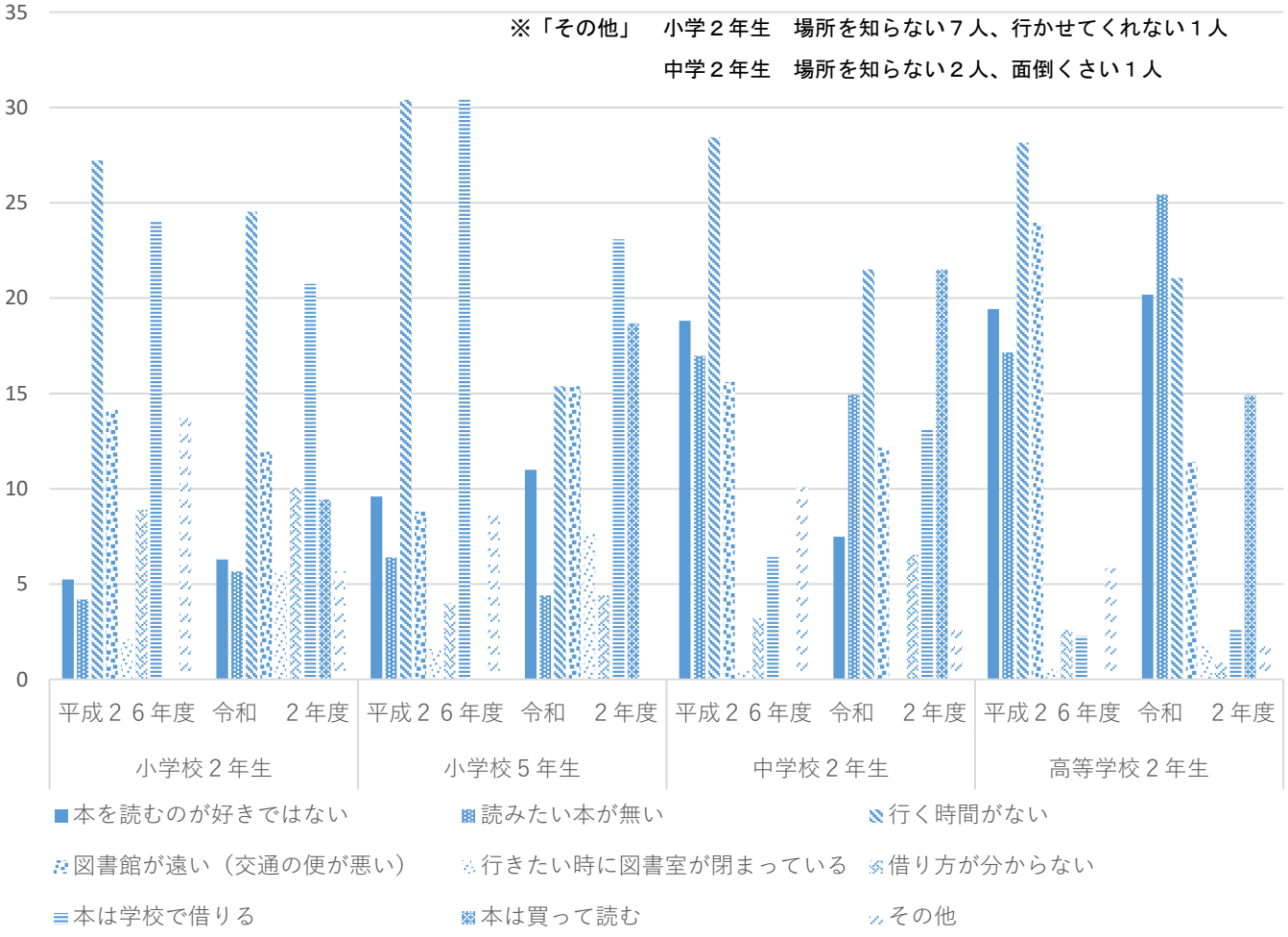
問16．行かないのはなぜですか。

平成16年度未調査　複数回答

			本を読むのが好きではない	読みたい本が無い	行く時間が無い	図書館が遠い（交通の便が悪い）	行きたい時図書室が閉まっている	借り方が分からない	本は学校で借りる	本は買って読む	その他	計
人数	小学２年生	平成26年度	10	8	52	27	4	17	46	0	27	191
		令和　2年度	10	9	39	19	9	16	33	15	9	159
	小学５年生	平成26年度	12	8	38	11	2	5	38	0	11	125
		令和　2年度	10	4	14	14	7	4	21	17	0	91
	中学２年生	平成26年度	41	37	62	34	1	7	14	0	22	218
		令和　2年度	8	16	23	13	0	7	14	23	3	107
	高校２年生	平成26年度	60	53	87	74	2	8	7	0	18	309
		令和　2年度	23	29	24	13	2	1	3	17	2	114
割合	小学２年生	平成26年度	5.2	4.2	27.2	14.1	2.1	8.9	24.1	0.0	14.1	100
		令和　2年度	6.3	5.7	24.5	12.0	5.7	10.1	20.8	9.4	5.7	100
	小学５年生	平成26年度	9.6	6.4	30.4	8.8	1.6	4.0	30.4	0.0	8.8	100
		令和　2年度	11.0	4.4	15.4	15.4	7.7	4.4	23.1	18.7	0.0	100
	中学２年生	平成26年度	18.8	17.0	28.4	15.6	0.5	3.2	6.4	0.0	10.1	100
		令和　2年度	7.5	15.0	21.5	12.2	0.0	6.5	13.1	21.5	2.8	100
	高校２年生	平成26年度	19.4	17.2	28.2	24.0	0.7	2.6	2.3	0.0	5.8	100
		令和　2年度	20.2	25.4	21.1	11.4	1.8	0.9	2.6	14.9	1.8	100

※「その他」　小学２年生　場所を知らない７人、行かせてくれない１人

中学２年生　場所を知らない２人、面倒くさい１人

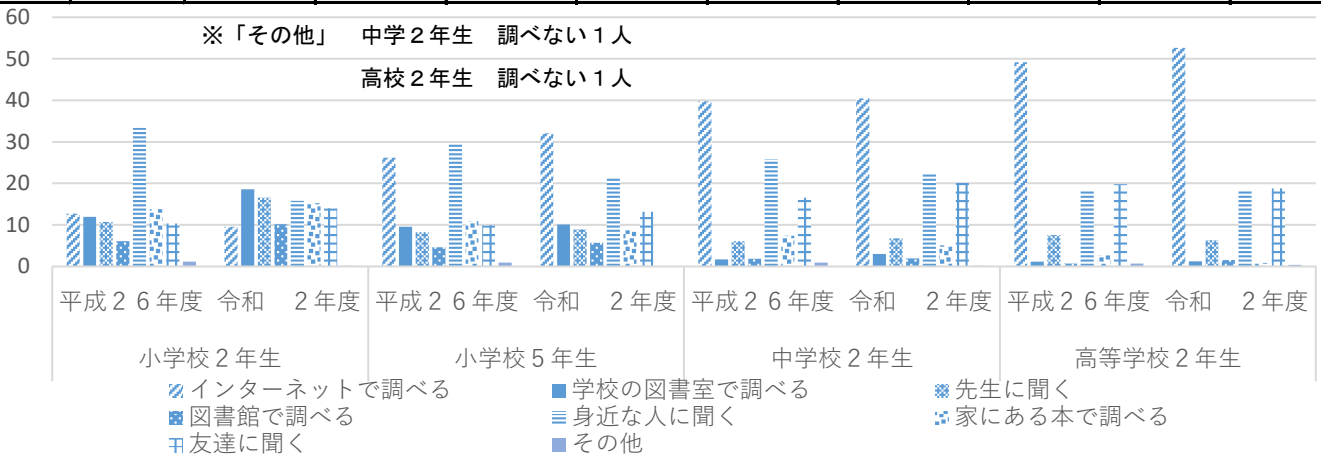


問17．わからないことや知りたいことがあるとき、どうやって調べますか。

平成16年度未調査　複数回答

			インターネットで調べる	学校の図書室で調べる	先生に聞く	図書館で調べる	身近な人に聞く	家にある本で調べる	友達に聞く	その他	計
人数	小学2年生	平成26年度	107	101	90	51	281	116	87	10	843
		令和 2年度	81	157	140	86	134	129	119	1	847
	小学5年生	平成26年度	266	97	84	47	300	111	101	9	1,015
		令和 2年度	283	89	79	50	188	77	116	0	882
	中学2年生	平成26年度	430	18	66	20	279	80	179	10	1,082
		令和 2年度	334	25	56	16	186	42	166	1	826
	高校2年生	平成26年度	470	11	72	7	174	26	189	7	956
		令和 2年度	384	9	46	11	134	6	137	3	730
割合	小学2年生	平成26年度	12.7	12.0	10.7	6.1	33.3	13.8	10.3	1.2	100
		令和 2年度	9.6	18.5	16.5	10.2	15.8	15.2	14.1	0.1	100
	小学5年生	平成26年度	26.2	9.6	8.3	4.6	29.6	10.9	10.0	0.9	100
		令和 2年度	32.1	10.1	9.0	5.7	21.3	8.7	13.2	0.0	100
	中学2年生	平成26年度	39.7	1.7	6.1	1.9	25.8	7.4	16.5	0.9	100
		令和 2年度	40.4	3.0	6.8	1.9	22.5	5.1	20.1	0.1	100
	高校2年生	平成26年度	49.2	1.2	7.5	0.7	18.2	2.7	19.8	0.7	100
		令和 2年度	52.6	1.2	6.3	1.5	18.4	0.8	18.8	0.4	100

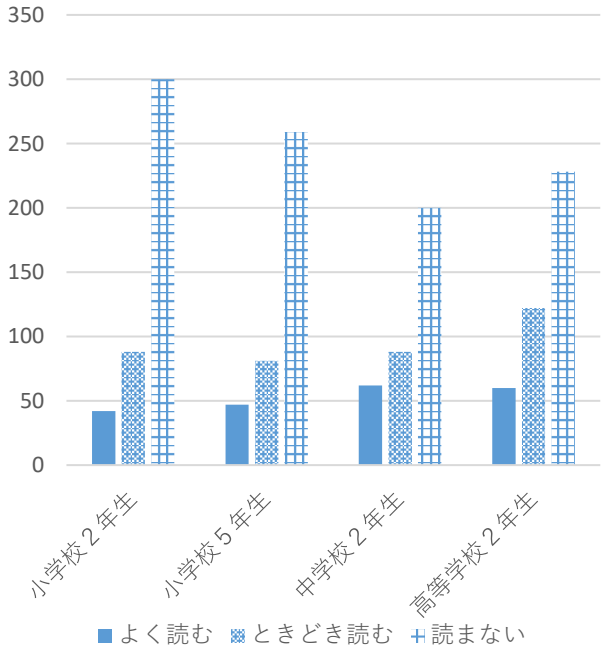
※「その他」　中学２年生　調べない１人
高校２年生　調べない１人



問18．パソコンやスマホ、タブレットで読書をしたことがありますか。

令和２年度のみ調査

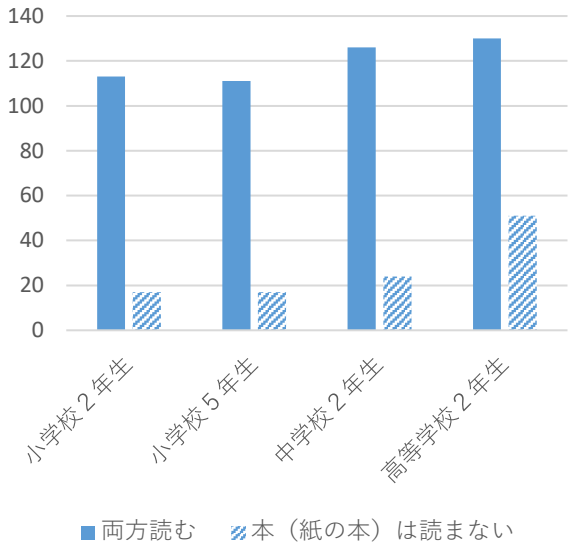
		よく読む	ときどき読む	読まない	計
人数	小学2年生	42	88	300	430
	小学5年生	47	81	259	387
	中学2年生	62	88	200	350
	高校2年生	60	122	228	410
割合	小学2年生	9.8	20.5	69.8	100
	小学5年生	12.1	20.9	66.9	100
	中学2年生	17.7	25.1	57.1	100
	高校2年生	14.6	29.8	55.6	100



問19．パソコンやスマホなどの電子書籍のほかに、本（紙の本）も読みますか。

令和2年度のみ調査

		両方読む	本（紙の本）は読まない	計
人数	小学2年生	113	17	130
	小学5年生	111	17	128
	中学2年生	126	24	150
	高校2年生	130	51	181
割合	小学2年生	86.9	13.1	100
	小学5年生	86.7	13.3	100
	中学2年生	84.0	16.0	100
	高校2年生	71.8	28.2	100

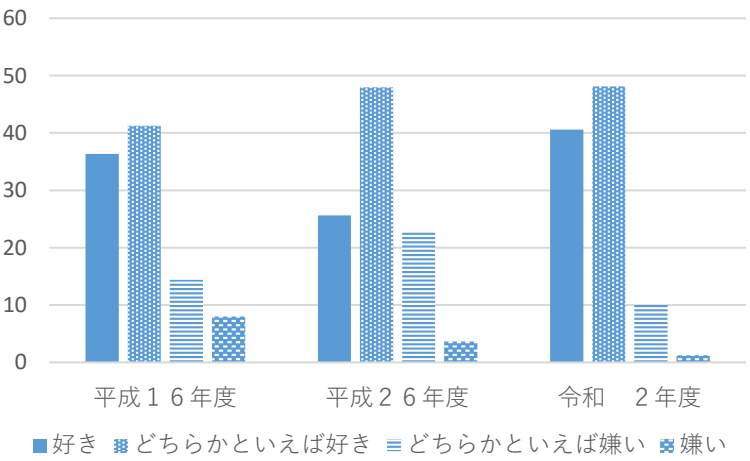


２．保護者の結果

①幼稚園年少児の保護者

問１．読書が好きですか。

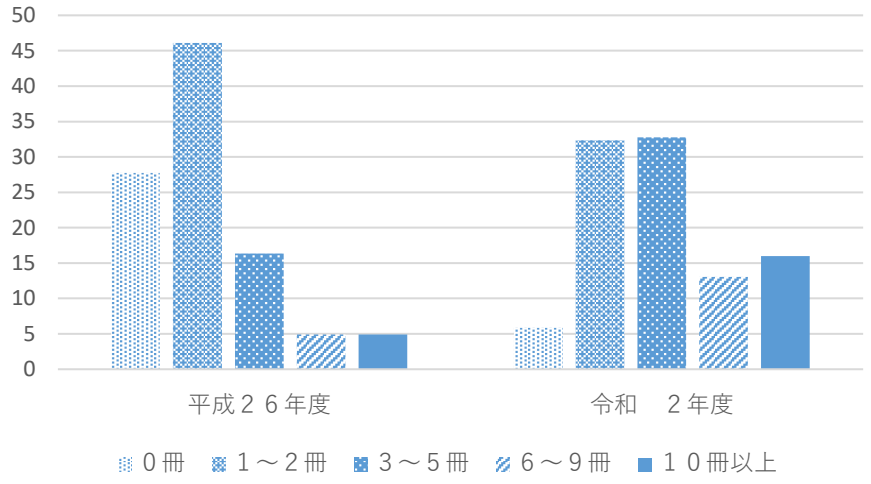
		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	計
人数	平成16年度	154	175	61	34	424
	平成26年度	63	118	56	9	246
	令和 2年度	97	115	24	3	239
割合	平成16年度	36.3	41.3	14.4	8.0	100
	平成26年度	25.6	48.0	22.8	3.7	100
	令和 2年度	40.6	48.1	10.0	1.3	100



問２．先月１か月に本を何冊くらい読みましたか。

平成16年度未調査

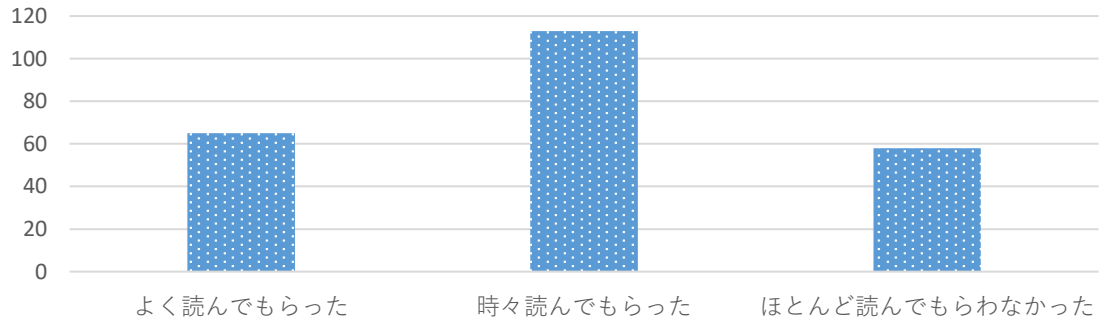
		０冊	１～２冊	３～５冊	６～９冊	１０冊以上	計
人数	平成26年度	68	113	40	12	12	245
	令和２年度	14	77	78	31	38	238
割合	平成26年度	27.8	46.1	16.3	4.9	4.9	100
	令和２年度	5.9	32.4	32.8	13.0	16.0	100



問３．自分が子どもの頃に、絵本や本の読み聞かせをしてもらったことがありますか。

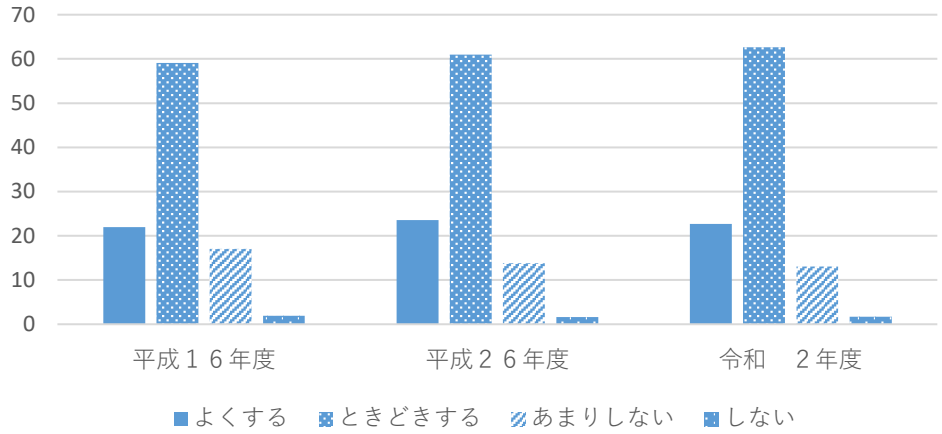
令和２年度のみ調査

	よく読んでもらった	時々読んでもらった	ほとんど読んでもらわなかった	計
人数	65	113	58	236
割合	27.5	47.9	24.6	100



問４．子どもに絵本や本を読み聞かせたり、民話や昔話などを語ったりしますか。

		よくする	ときどきする	あまりしない	しない	計
人数	平成16年度	93	250	72	8	423
	平成26年度	58	150	34	4	246
	令和 2年度	54	149	31	4	238
割合	平成16年度	22.0	59.1	17.0	1.9	100
	平成26年度	23.6	61.0	13.8	1.6	100
	令和 2年度	22.7	62.6	13.0	1.7	100



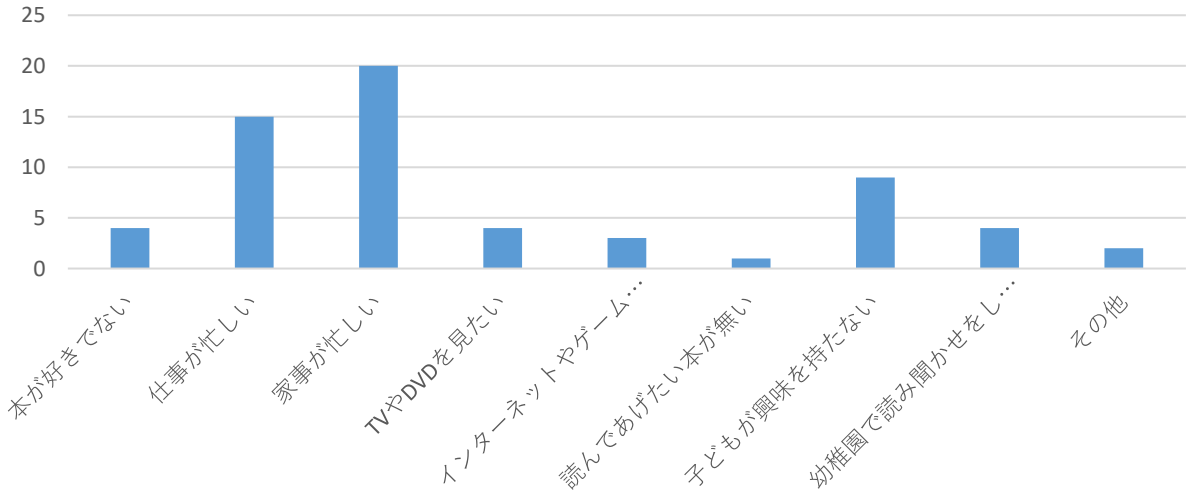
問５．しない理由を教えて下さい。

令和2年度のみ調査、複数回答

	本が好きでない	仕事が忙しい	家事が忙しい	TVやDVDを見たい	インターネットやゲームをしたい
人数	4	15	20	4	3
割合	6.5	24.2	32.3	6.5	4.8

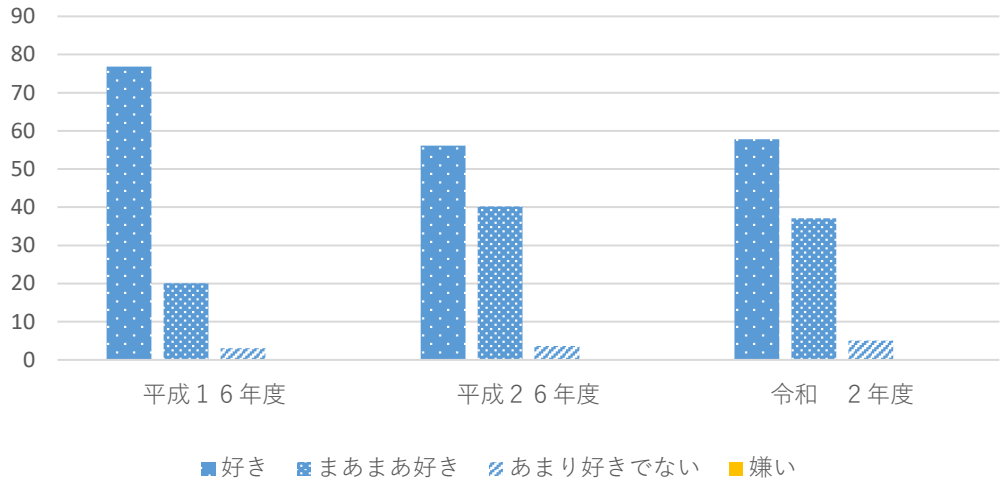
読んであげたい本が無い	子どもが興味を持たない	幼稚園で読み聞かせをしてもらっている	その他	計
1	9	4	2	62
1.6	14.5	6.5	3.2	100

※「その他」　子どもが自分で読む１人
家に本が無い１人



問６．あなたの子どもは、読み聞かせをしてもらうのが好きですか。

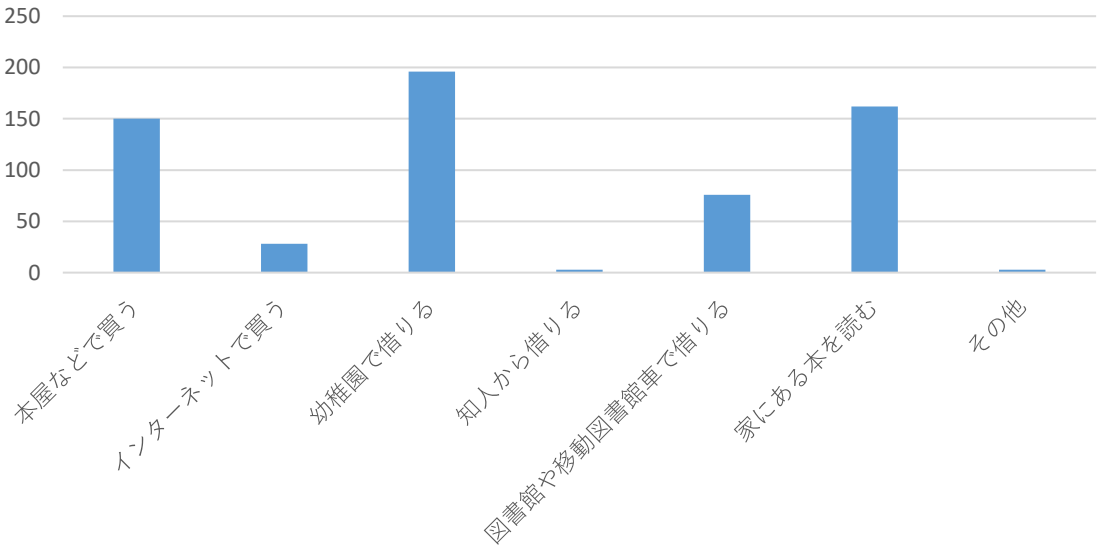
		好 き	まあまあ好き	あまり好きでない	嫌 い	計
人数	平成16年度	325	85	13	0	423
	平成26年度	138	99	9	0	246
	令和 2年度	137	88	12	0	237
割合	平成16年度	76.8	20.1	3.1	0.0	100
	平成26年度	56.1	40.2	3.7	0.0	100
	令和 2年度	57.8	37.1	5.1	0.0	100



問７．子どもに読む本は、どのようにして用意していますか。

令和2年度のみ調査、複数回答

	本屋などで買う	インターネットで買う	幼稚園で借りる	知人から借りる	図書館や移動図書館車で借りる	家にある本を読む	その他	計
人数	150	28	196	3	76	162	3	618
割合	24.3	4.5	31.7	0.5	12.3	26.2	0.5	100

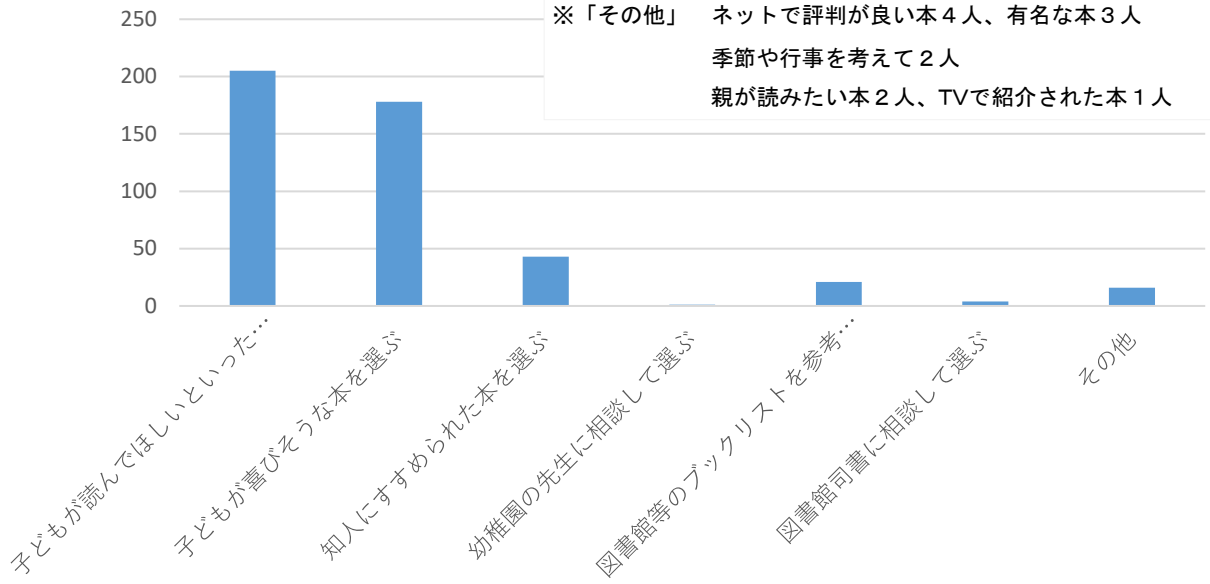


問８．子どもに読む本をどのようにして選んでいますか。

令和２年度のみ調査、複数回答

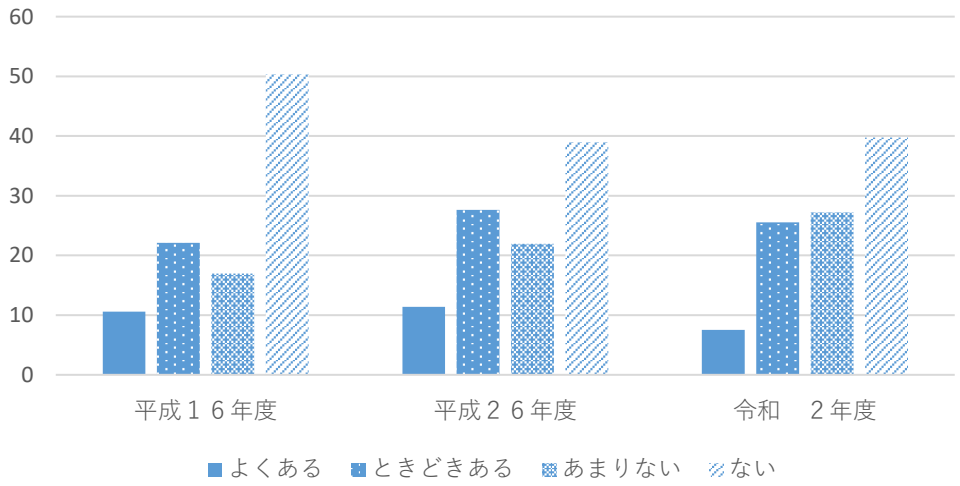
	子どもが読んでほしいといった本を選ぶ	子どもが喜びそうな本を選ぶ	知人にすすめられた本を選ぶ	幼稚園の先生に相談して選ぶ	図書館等のブックリストを参考に選ぶ	図書館司書に相談して選ぶ	その他	計
人数	205	178	43	1	21	4	16	468
割合	43.8	38.0	9.2	0.2	4.5	0.9	3.4	100

※「その他」　ネットで評判が良い本４人、有名な本３人
季節や行事を考えて２人
親が読みたい本２人、TVで紹介された本１人



問９．図書館へ子どもを連れて行くことがありますか。

		よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
人数	平成16年度	45	94	72	214	425
	平成26年度	28	68	54	96	246
	令和 2年度	18	61	65	95	239
割合	平成16年度	10.6	22.1	16.9	50.4	100
	平成26年度	11.4	27.6	22.0	39.0	100
	令和 2年度	7.5	25.5	27.2	39.8	100

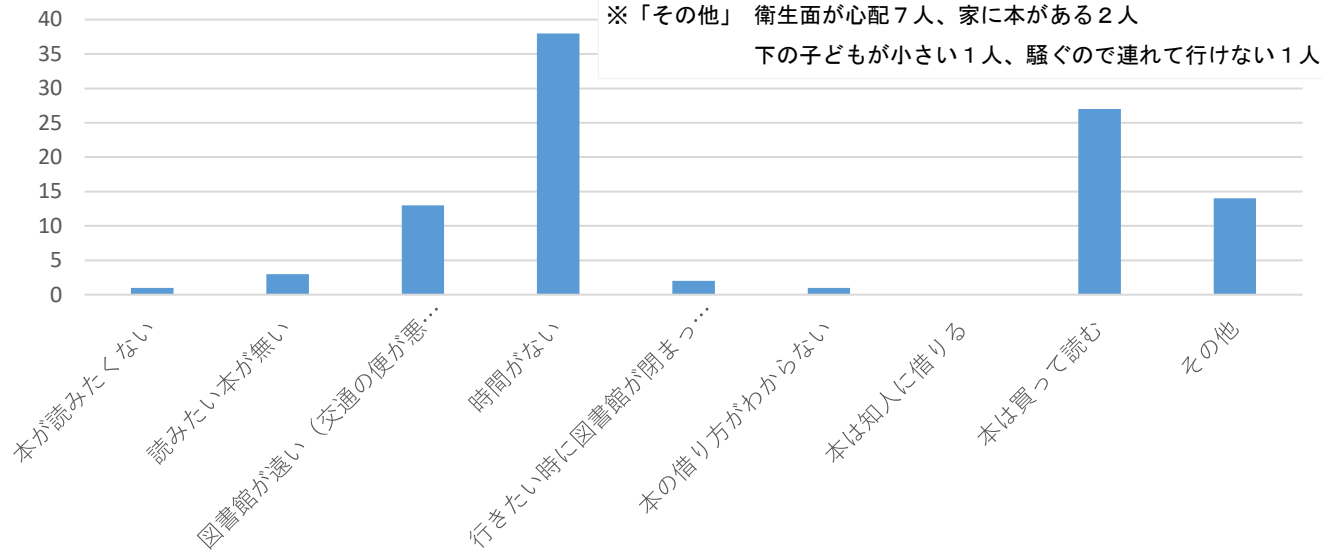


問10．行かない理由を教えて下さい。

令和２年度のみ調査

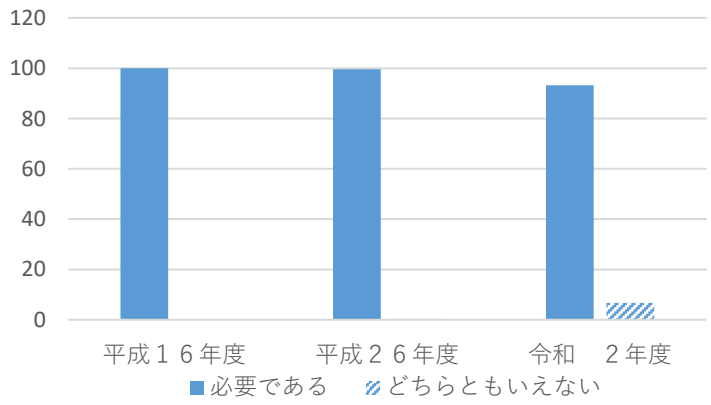
	本が読みたくない	読みたい本が無い	図書館が遠い（交通の便が悪い）	時間がない	行きたい時に図書館が閉まっている	本の借り方がわからない	本は知人に借りる	本は買って読む	その他	計
人数	1	3	13	38	2	1	0	27	14	99
割合	1.0	3.0	13.1	38.4	2.0	1.0	0.0	27.3	14.1	100

※「その他」　衛生面が心配７人、家に本がある２人
下の子どもが小さい１人、騒ぐので連れて行けない１人



問11．子どもが本を読むことや本に興味を持つことは、子どもの成長に必要なことだと思いますか。

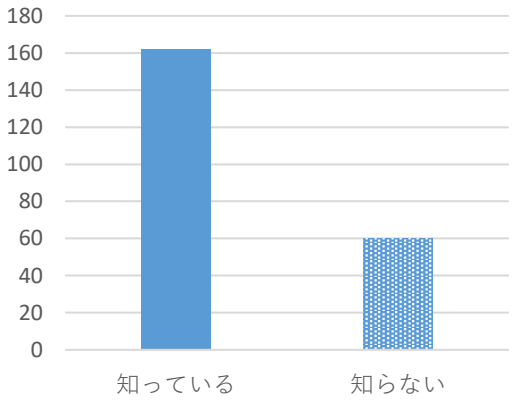
		必要である	どちらともいえない	必要でない	計
人数	平成16年度	416	0	0	416
	平成26年度	240	1	0	241
	令和　2年度	208	15	0	223
割合	平成16年度	100	0	0	100
	平成26年度	99.6	0.4	0.0	100
	令和　2年度	93.3	6.7	0.0	100



※ 平成16年度、26年度調査の「思う」、「少し思う」は「必要である」に、「あまり思わない」は「どちらとも言えない」でカウントしている。

問13．ブックスタート事業を知っていますか。

	知っている	知らない	計
人数	162	60	222
割合	73.0	27.0	100



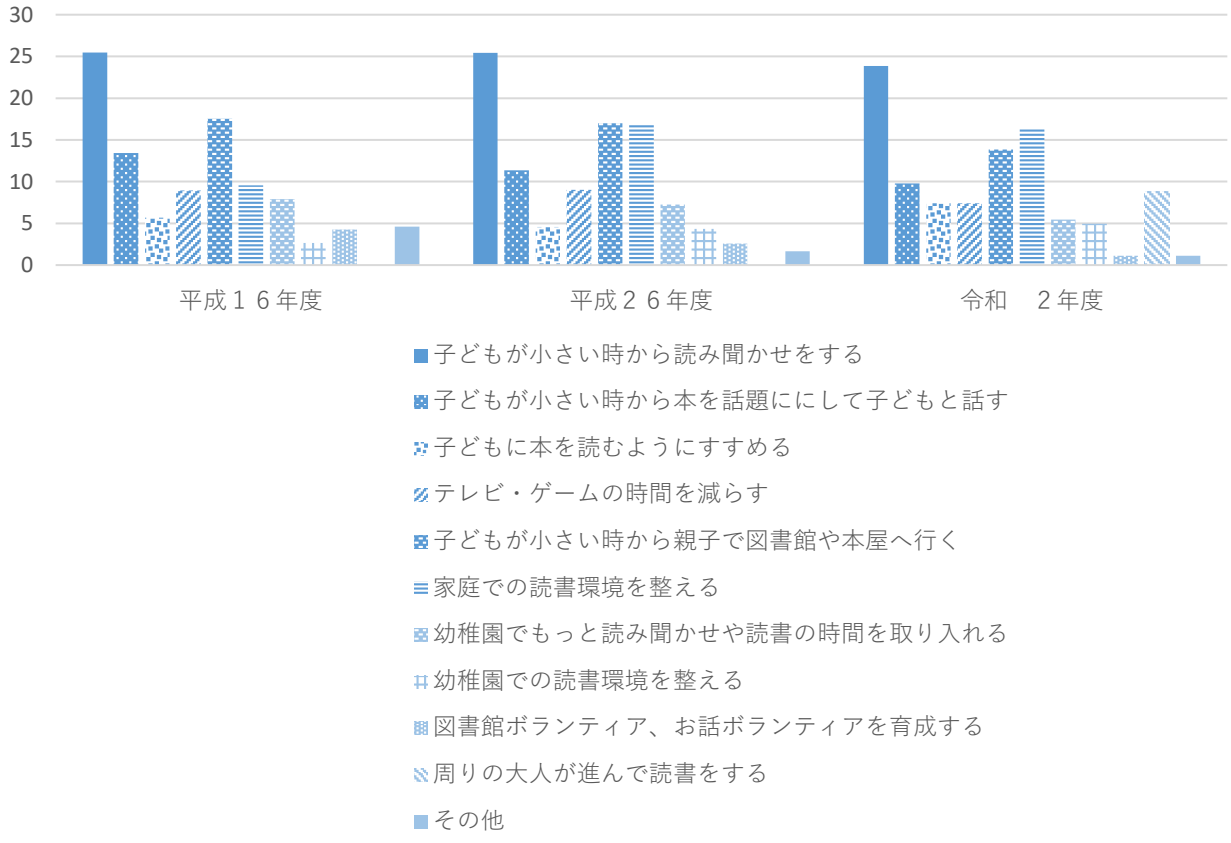
※ 問12は、紙面スペースの関係上、次ページに記載。

問12．子どもが本を読むようになるには、どうすれば良いと思いますか。

		子どもが小さい時から読み聞かせをする	子どもが小さい時から本を話題にして子どもと話す	子どもに本を読むようにすすめる	テレビ･ゲームの時間を減らす	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	家庭での読書環境を整える	幼稚園でもっと読み聞かせや読書の時間を取り入れる	幼稚園での読書環境を整える
人数	平成16年度	376	198	84	132	259	141	117	39
	平成26年度	217	97	39	77	145	144	62	37
	令和 2年度	193	79	60	60	112	132	44	40
割合	平成16年度	25.5	13.4	5.7	8.9	17.5	9.6	7.9	2.6
	平成26年度	25.4	11.4	4.6	9.0	17.0	16.9	7.3	4.3
	令和 2年度	23.9	9.8	7.4	7.4	13.8	16.3	5.4	4.9

複数回答

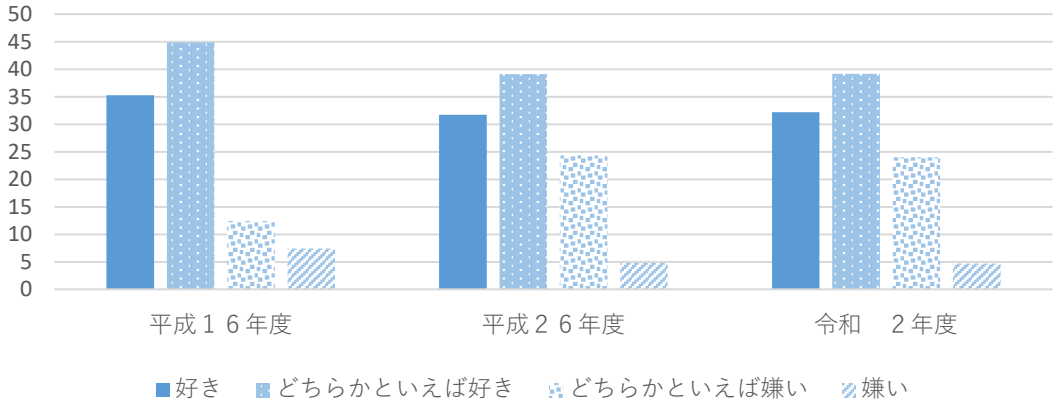
		図書館ボランティア、お話ボランティアを育成する	周りの大人が進んで読書をする	その他	計
人数	平成16年度	63	0	68	1,477
	平成26年度	22	0	14	854
	令和 2年度	9	71	9	809
割合	平成16年度	4.3	0.0	4.6	100
	平成26年度	2.6	0.0	1.6	100
	令和 2年度	1.1	8.8	1.1	100



②小学５年生の保護者

問１．読書が好きですか。

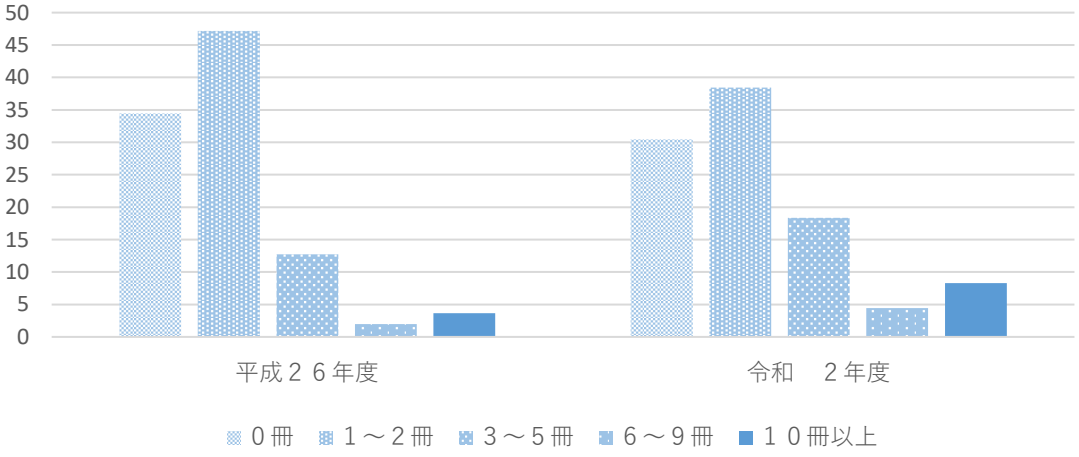
		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	計
人数	平成16年度	162	206	57	34	459
	平成26年度	112	138	86	17	353
	令和 2年度	110	134	82	16	342
割合	平成16年度	35.3	44.9	12.4	7.4	100
	平成26年度	31.7	39.1	24.4	4.8	100
	令和 2年度	32.2	39.2	24.0	4.7	100



問２．先月１か月に本を何冊くらい読みましたか。

平成16年度未調査

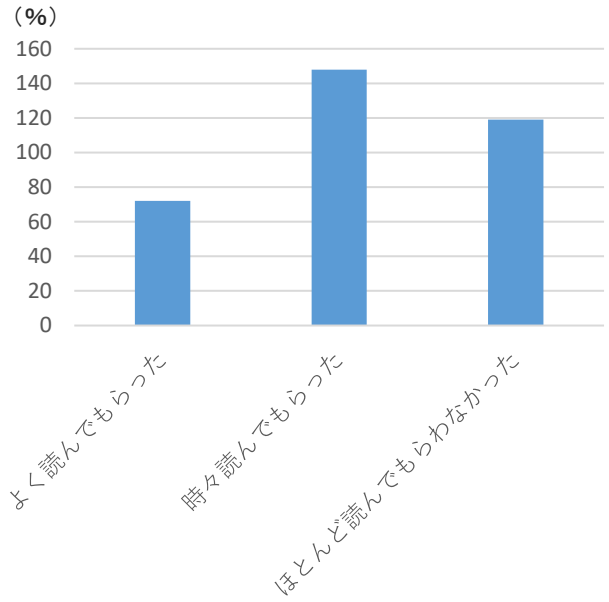
		０冊	１～２冊	３～５冊	６～９冊	10冊以上	計
人数	平成26年度	122	167	45	7	13	354
	令和 2年度	103	130	62	15	28	338
割合	平成26年度	34.5	47.2	12.7	2.0	3.7	100
	令和 2年度	30.5	38.5	18.3	4.4	8.3	100



問３．自分が子どもの頃に、絵本や本の読み聞かせをしてもらったことがありますか。

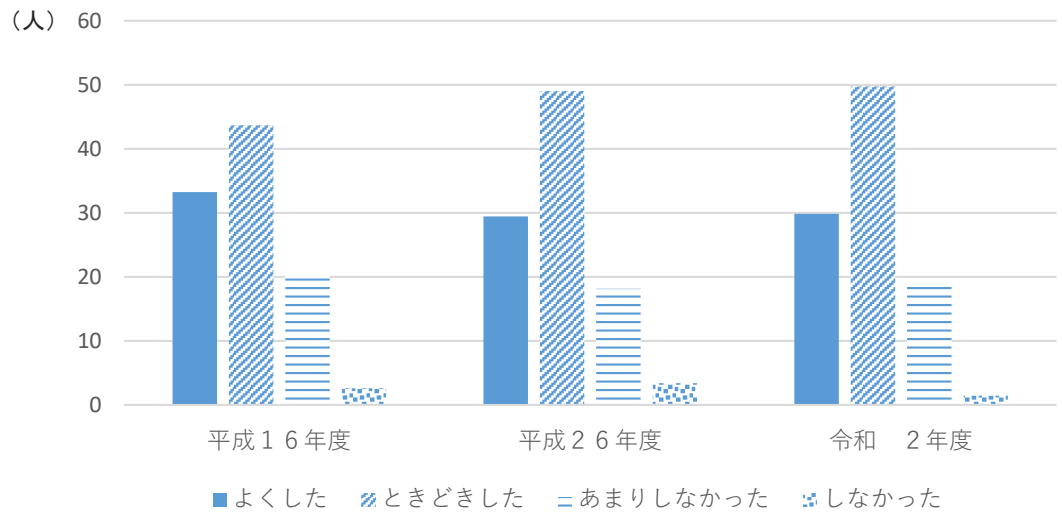
令和2年度のみ調査

	よく読んでもらった	時々読んでもらった	ほとんど読んでもらわなかった	計
人数	72	148	119	339
割合	21.2	43.7	35.1	100



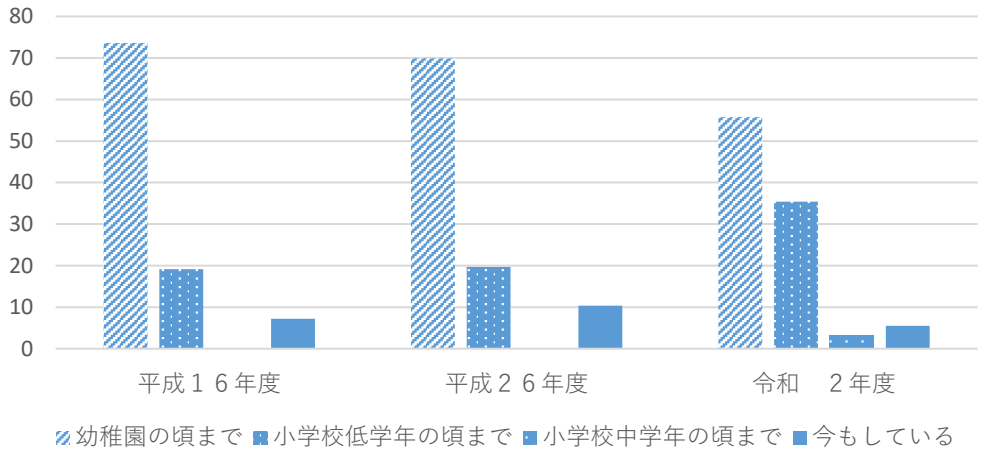
問４．子どもに絵本や本を読み聞かせたり、民話や昔話などを語ったりしましたか。

		よくした	ときどきした	あまりしなかった	しなかった	計
人数	平成16年度	153	201	94	12	460
	平成26年度	104	173	64	12	353
	令和 2年度	102	170	65	5	342
割合	平成16年度	33.3	43.7	20.4	2.6	100
	平成26年度	29.5	49.0	18.1	3.4	100
	令和 2年度	29.8	49.7	19.0	1.5	100



問５．いつ頃までしましたか。

		幼稚園の頃まで	小学校低学年の頃まで	小学校中学年の頃まで	今もしている	計
人数	平成16年度	315	82	0	31	428
	平成26年度	195	55	0	29	279
	令和 2年度	151	96	9	15	271
割合	平成16年度	73.6	19.2	0.0	7.2	100
	平成26年度	69.9	19.7	0.0	10.4	100
	令和 2年度	55.7	35.4	3.3	5.5	100



問６．しない理由を教えて下さい。

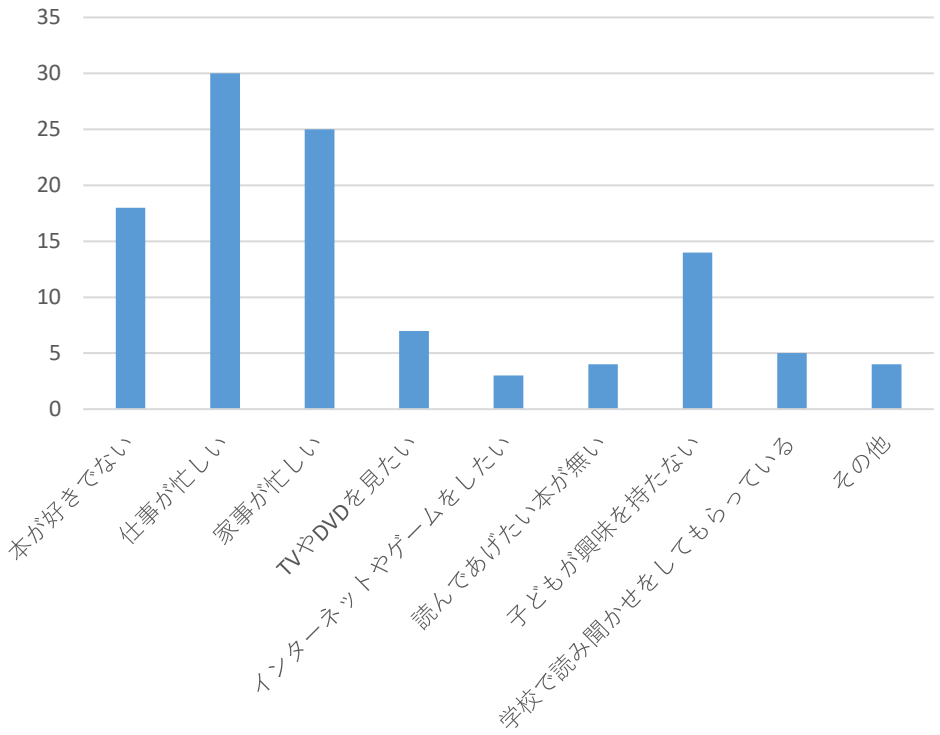
令和２年度のみ調査、複数回答

	本が好きでない	仕事が忙しい	家事が忙しい	TVやDVDを見たい	インターネットやゲームをしたい	読んであげたい本が無い	子どもが興味を持たない	学校で読み聞かせをしてもらっている
人数	18	30	25	7	3	4	14	5
割合	16.4	27.3	22.7	6.4	2.7	3.6	12.7	4.6

その他	計
4	110
3.6	100

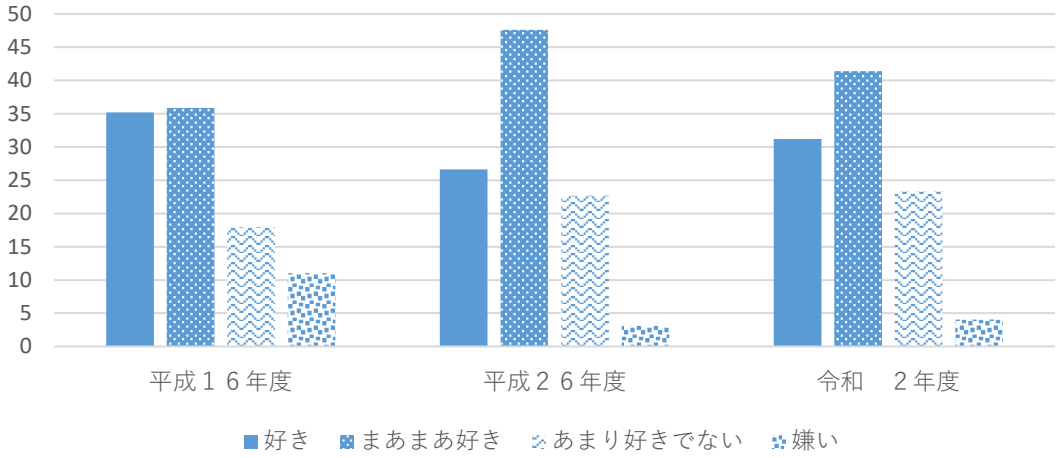
※　「その他」

子どもが自分で読む１人



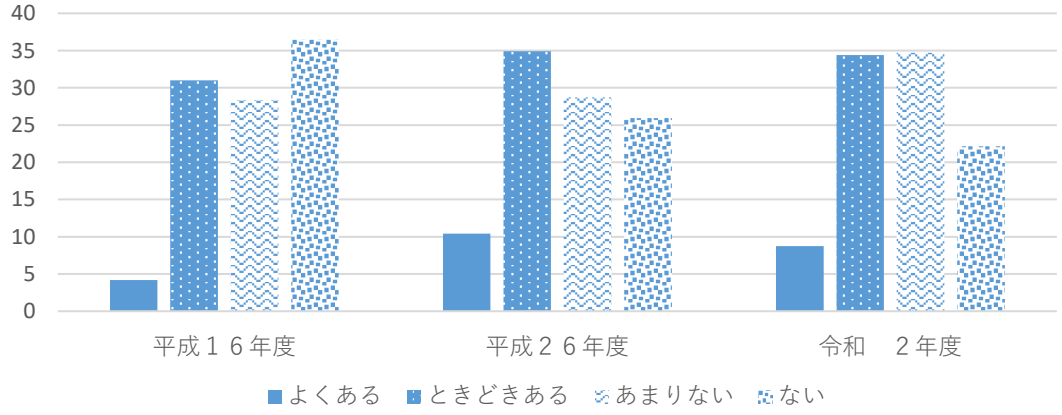
問７．あなたの子どもは、本を読むのが好きですか。

		好き	まあまあ好き	あまり好きでない	嫌い	計
人数	平成16年度	163	166	83	51	463
	平成26年度	94	168	80	11	353
	令和 2年度	107	142	80	14	343
割合	平成16年度	35.2	35.9	17.9	11.0	100
	平成26年度	26.6	47.6	22.7	3.1	100
	令和 2年度	31.2	41.4	23.3	4.1	100



問８．図書館へ子どもを連れて行くことがありますか。

		よくある	ときどきある	あまりない	ない	計
人数	平成16年度	19	141	129	166	455
	平成26年度	37	124	102	92	355
	令和 2年度	30	118	119	76	343
割合	平成16年度	4.2	31.0	28.4	36.5	100
	平成26年度	10.4	34.9	28.7	25.9	100
	令和 2年度	8.8	34.4	34.7	22.2	100

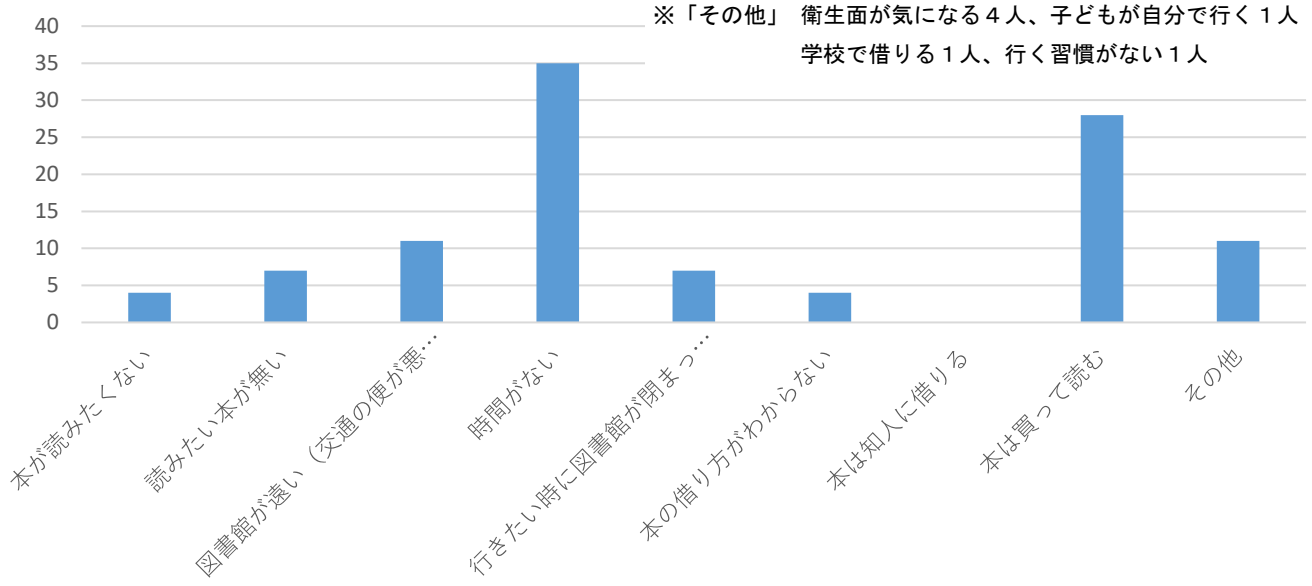


問９．行かない理由を教えて下さい。

令和2年度のみ調査

	本が読みたくない	読みたい本が無い	図書館が遠い（交通の便が悪い）	時間がない	行きたい時に図書館が閉まっている	本の借り方がわからない	本は知人に借りる	本は買って読む	その他	計
人数	4	7	11	35	7	4	0	28	11	107
割合	3.7	6.5	10.3	32.7	6.5	3.7	0.0	26.2	10.3	100

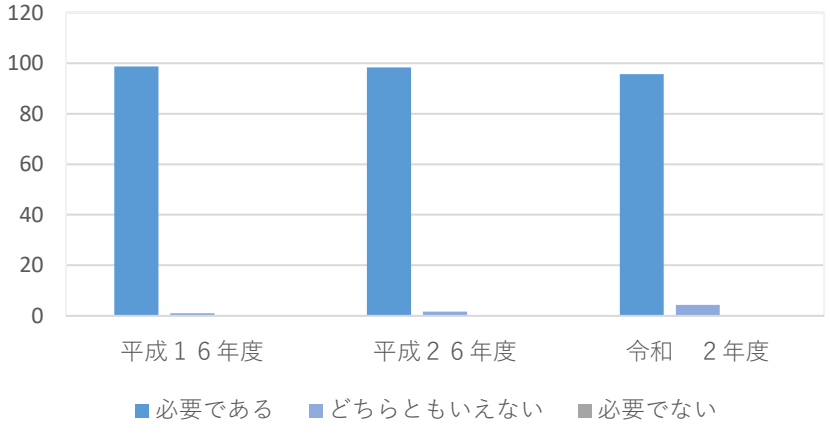
※「その他」　衛生面が気になる４人、子どもが自分で行く１人
学校で借りる１人、行く習慣がない１人



問10．子どもが本を読むことや本に興味を持つことは、子どもの成長に必要なことだと思いますか。

		必要である	どちらともいえない	必要でない	計
人数	平成16年度	457	5	1	463
	平成26年度	349	6	0	355
	令和 2年度	328	15	0	343
割合	平成16年度	98.7	1.1	0.2	100
	平成26年度	98.3	1.7	0.0	100
	令和 2年度	95.6	4.4	0.0	100

平成16年度、26年度調査の
「思う」「少し思う」は、「必要である」に、
「あまり思わない」は、「どちらとも言えない」に、
それぞれカウントしている。

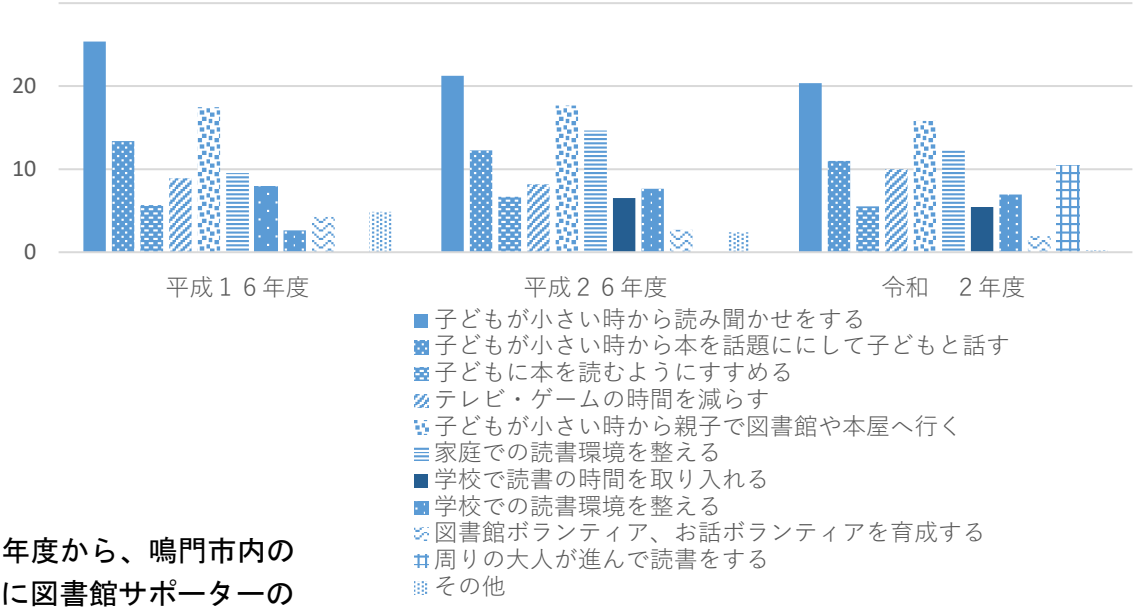


問11．子どもが本を読むようになるには、どうすれば良いと思いますか。　　複数回答

		子どもが小さい時から読み聞かせをする	子どもが小さい時から本を話題ににして子どもと話す	子どもに本を読むようにすすめる	テレビ・ゲームの時間を減らす	子どもが小さい時から親子で図書館や本屋へ行く	家庭での読書環境を整える	学校で読書の時間を取り入れる	学校での読書環境を整える
人数	平成16年度	376	198	84	132	259	141	117	39
	平成26年度	267	154	84	103	222	184	82	96
	令和 2年度	261	141	71	128	203	157	70	89
割合	平成16年度	25.4	13.4	5.7	8.9	17.5	9.5	7.9	2.6
	平成26年度	21.3	12.3	6.7	8.2	17.7	14.6	6.5	7.6
	令和 2年度	20.4	11.0	5.5	10.0	15.8	12.2	5.5	6.9

図書館ボランティア、お話ボランティアを育成する	周りの大人が進んで読書をする	その他	計
63	0	72	1,481
34	0	30	1,256
25	134	3	1,282
4.3	0.0	4.9	100
2.7	0.0	2.4	100
2.0	10.5	0.2	100

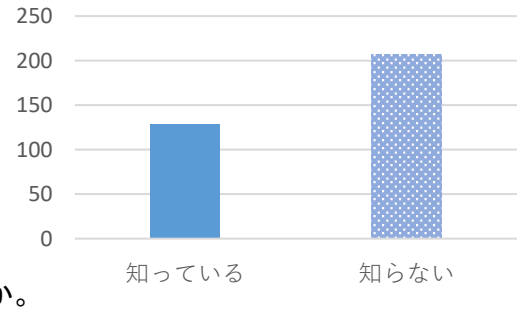
※「その他」　図書館サポーター制度を続ける１人



問12．平成28年度から、鳴門市内の小・中学校に図書館サポーターの先生がいることを知っていますか。

令和２年度のみ調査

	知っている	知らない	計
人数	128	207	335
割合	38.2	61.8	100



問13．図書館サポーターに期待することは何ですか。

おすすめの本を教えてあげて29人、読書の楽しさを教えてあげて22人、いろんなジャンルの本を揃えて16人
図書館に行く機会が増える取組12人、読み聞かせをしてあげて４人
図書館だよりを配布して３人、常駐して１人、サポーターの仕事を教えて１人、無理に読書を勧めないで１人
サポーターと保護者が話せる機会を作って１人、今の活動を続けて１人

２　鳴門市子どもの読書活動ボランティア団体一覧表

令和３年６月調査

No.	グループ名	活動場所	会員数(人)	発足年月	例会回数	活動内容
1	NPO 法人ふくろうの森 「ありんこの会」	市立図書館・市内学校	8	2002.4	月１	連絡会、お話勉強会
2	NPO 法人ふくろうの森 さわる絵本の会「ふわふわ」	市立図書館・徳島視覚支援学校	8	2004.11	月２	読書支援
3	渦潮の会	第一中	7	2009.5	月４	読み聞かせ
4	おはなしの会「カレーパン」	第二中	4	2018.-	月２	読み聞かせ
5	鳴門西チョボラの会 「お話チョボラ」	鳴門中 鳴門西小 成稔幼	13 13 4	2002.2	月１	読み聞かせ 読み聞かせ、学校図書館環境整備 読み聞かせ
6	絵本大好きの会	撫養幼	2	2014.4	月１	読み聞かせ
7	おはなしクレヨン	黒崎小	5	2003.4	月４	読み聞かせ
8	お話出てこい	堀江北幼	1	2004.9	月１	読み聞かせ
9	お話しの会「あのね！」	第一幼	7	2003.5	月１	読み聞かせ
10	れんこんチップスの会	大津西幼	4	2018.5	月１	読み聞かせ
11	おはなしの会「ころころ」	里浦幼	4	2011.5	月１	絵本の読み聞かせ
12	おはなしの会「南風」	堀江南小 堀江南幼	5	1999.-	月１	読み聞かせ
13	おはなしばんばんの会	板東幼	2	2005.4	月１	絵本の読み聞かせ
14	くりいむぱん	精華幼	4	2008.5	月２	読み聞かせ
15	瀬戸中学校読み聞かせ会	瀬戸中	6	2013.5	月１	読み聞かせ
16	空とぶじゅうたん	板東小	14	2002.4	月３	読み聞かせ、 学校図書館環境整備
17	たんぽぽの会	林崎児童クラブ	3	2003.4	月１	絵本の読み聞かせ
18	地域のボランティア	黒崎幼	1	2010.-	月２	読み聞かせ

No.	グループ名	活動場所	会員数(人)	発足年月	例会回数	活動内容
19	菜の花の会	明神小	5	2002.4	月２	読み聞かせ、学校図書館環境整備
20	鳴門教育大学お話ボランティア	鳴門東小	6	—	月２	読み聞かせ
21	ぼちぼちの会	桑島幼	16	2007.4	月１	読み聞かせ
22	ＰＴＡ読書委員「絵本大好きの会」	桑島幼	11	—	月１	読み聞かせ
23	おはなしの会	明神幼	2	—	月１	読み聞かせ
24	ひまわりの会	里浦児童クラブ	2	2004.7	月１	読み聞かせ
25	ほいきた堀北おはなし隊	堀江北小	5	2004.9	週１	読み聞かせ
26	ほりきたマザーズ	堀江北小	8	2008.6	月１	学校図書館環境整備
27	ポケットの会	撫養小	13	2002.6	月１	読み聞かせ、学校図書館環境整備
28	ぼちぼちの会	桑島小 桑島幼	16	2007.4	月１	読み聞かせ
29	めろんぱん	林崎小	10	2003.5	月４	読み聞かせ、パネルシアター(年１回)
30	こうのとり	大津西小	5	2018.8	月 1~2	読み聞かせ、パネルシアター、学校図書館環境整備
31	ゆりかごの会	ブックスタート会場	10	2002.11	月１	読み聞かせ
32	わたぼうしの会	第一小	10	2002.6	週１	読み聞かせ、学校図書館環境整備、本の修理
33	さやの会	板東児童クラブ	5	—	月１	絵本の読み聞かせ
34	お話しの会	鳴門西児童クラブ	2	—	月１	絵本の読み聞かせ
35	お話しの会あのね	第一幼稚園 木津児童クラブ	1	—	月１	絵本の読み聞かせ

※ 発足年月「―」は不明。

３　子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月12日 法律第154号）

（目的）

第一条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第二条　子ども（おおむね１８歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第三条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第四条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第五条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第六条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第七条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第八条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条　都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県

における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2　市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3　都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4　前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条　国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2　子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3　国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附　則

この法律は、公布の日から施行する。

衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

一　本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

二　民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

三　子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

四　学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

五　子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

六　国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

４　鳴門市子どもの読書活動推進協議会委員名簿

上段 令和２年度委員
下段 令和３年度委員

所属・肩書き	委員氏名
認定ＮＰＯ法人「ふくろうの森」 「ふくろうの森」子どもの読書活動担当	吉　成　悦　子　（会 長）
認定ＮＰＯ法人「ふくろうの森」 ありんこの会　代表	和　田　かおる　（副会長）
認定ＮＰＯ法人「ふくろうの森」 ゆりかごの会　代表	有　井　公　代
鳴門教育大学附属図書館 児童図書室室長	余　郷　裕　次
鳴門市幼小中ＰＴＡ連合会 会長	中　津　洋　久 江　本　　満
徳島県立鳴門渦潮高等学校 司書	野　口　佳津江
鳴門市中学校教育研究会 図書館教育部会　係教頭 係校長	宮　越　千　佳 岡　田　志　麻
鳴門市小学校教育研究会 図書館教育部会 係校長	宮　本　浩　子 平　野　貴　義
鳴門市子どもいきいき課 （ブックスタート、保育所(園)、児童クラブ担当）	阿　部　映　子
鳴門市教育委員会学校教育課 指導主事	冨　田　　愛
鳴門市学校図書館サポーター 代表	恵　美　純　子